

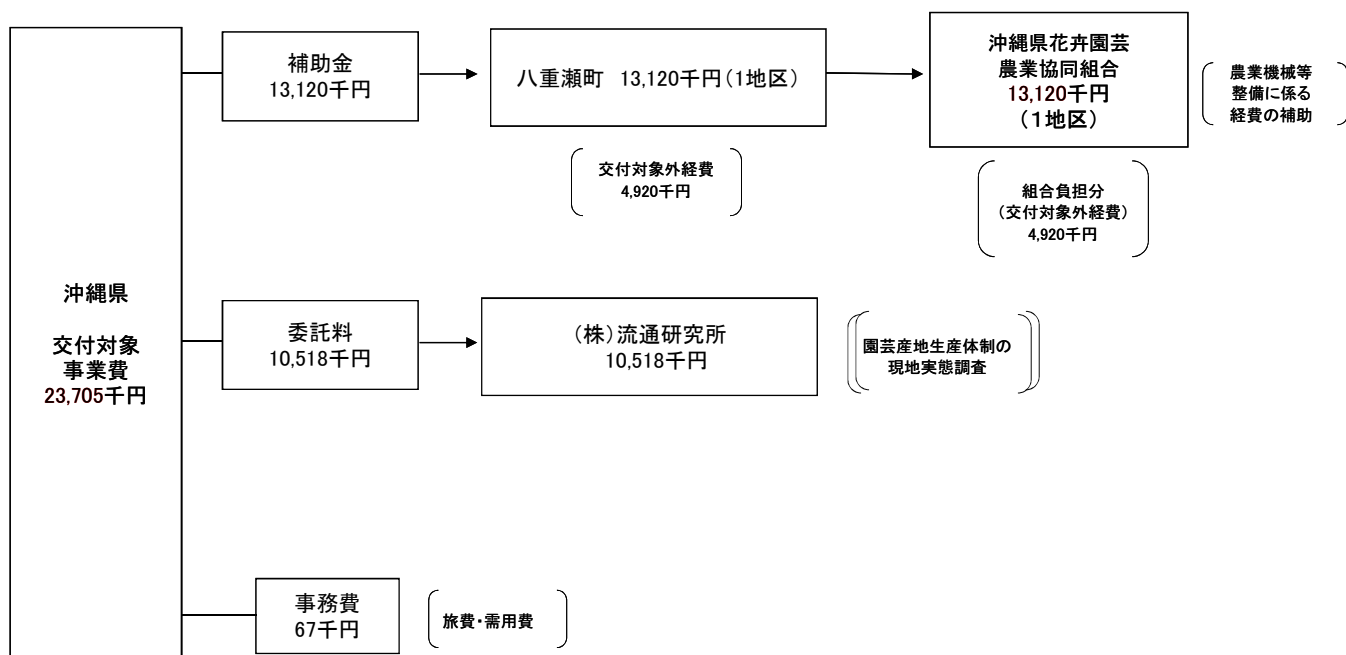
## 令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号 ・事業名	72	園芸産地生産支援事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第4章-3-(7)-ア-①		
担当部署名	農林水産部園芸振興課	事業実施 (予定)年度	H24 ~ R6 年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	野菜・果樹・花き類等の生産振興 Ⅲ-1-(6)	
事業内容	園芸産地に対し、生産拡大に向けた収穫機等機械整備に対する補助事業を行う。また、今後の機械化体系構築のための現地実態調査を行う。						
効果発現年度	■当年度      ■後年度(令和6年度)						
実施方法	□直接実施      ■委託      ■補助      □負担      □その他( )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	217,703		126,683		28,740
		(b)予算現額	217,703		42,905		28,740
		(c)増減額(b-a)	0	0	▲ 83,778	0	0
		(d)前年度繰越額		12,056			
		A. 計(b+d)	217,703	12,056	42,905	0	28,740
	B. 執行済額		173,804	11,440	41,727		23,705
	うち交付金充当額		139,043	9,152	33,381		18,964
	C. 次年度繰越額		12,056		0	0	0
	執行率(%) (B/A)		79.8%	94.9%	97.3%	#DIV/0!	82.5%
予算の状況の説明		・園芸産地の生産拡大を図るため、令和4年度から新規事業(平成30年度~令和3年度で実施した園芸産地機械整備事業の後継事業)として、機械整備に要する経費として補助金等を計上した。 ・執行率は82.5%であり、補助事業1地区について計画内容の調整に時間を要し実施できなかったことから、執行残が発生した。					
活動目標 (指 標) 及び 進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	農業用機械等の整備への支援	目標	6産地	7産地	3産地	2地区	
		実績	10産地	7産地	3産地	1地区	
	園芸産地生産体制の現地実態調査	目標				3件	
実績					3件		
進捗 状況 説明	農業用機械等の整備への支援については、自動結束ロボット付き選花機(キク)を整備したが、他1地区が計画内容の調整に時間を要し、実施できなかった。目標2地区に対して実績1地区と未達成となった。 園芸産地生産体制の現地実態調査については、委託業者へ事業の進捗を定期的に確認し、目標値を達成した。						
成果目標 (指 標) 及び 達成状況	R4成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (R6年度)
	農業用機械等の整備への支援	目標				2地区	
		実績				1地区	
	【R6年度成果目標】 令和4年度で整備した受益農家(花き)の生産量 増加		目標				5%以上増加
達成 状況 説明	成果目標である農業用機械等の整備への支援について、目標2地区に対し、実績1地区と未達成となっている。 達成できなかった主な理由は、市町村との計画調整に時間を要し事業実施が困難となったことによるものである。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・間接補助を基本とすることで市町村との関わりを強化し、産地ときめ細かい調整を行うことができたが、計画の精度を高めるのに時間を要し、事業実施が困難な状況もあった。</li> <li>・栽培期間を通じた機械化体系の構築を目指し実態把握を行った結果、各作業工程における省力化の必要性及び可能性を確認することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業団体、市町村との連携を強化し、情報収集や共有を迅速に行うことで、効率的な執行に務める。</li> <li>・機械化体系の構築を図るため、先進地における事例調査を行う必要がある。</li> </ul>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜、果樹、花きの生産拡大に向けて、引き続き機械化の推進が必要なため、市町村をはじめ関係機関との連携を強化した取組による早期執行を図るよう努める。</li> <li>・野菜、果樹、花きの農業機械導入等の先進事例調査等を行い、県内産地での実証計画を作成し、機械化体系の構築を目指す。</li> </ul>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付対象外経費				交付対象外経費
		うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	
28,625	23,705	18,964	4,741	0	0	4,920

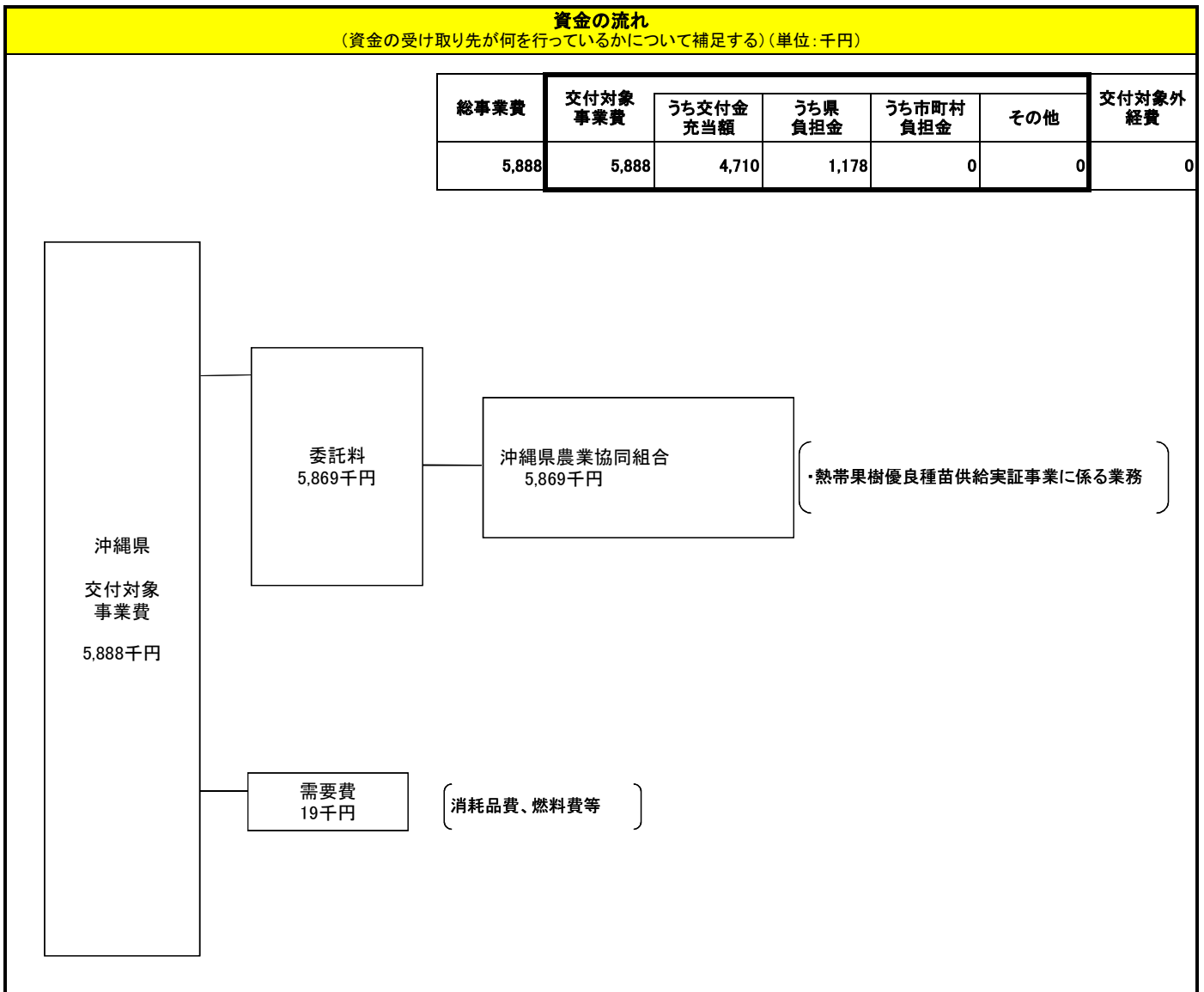


資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式により、企業組織、実績、知識等を勘案したうえで、選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○補助事業は、交付要綱、実施要領、事業計画等を精査した上で、実施地区を選定しており、妥当であったと考えている。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○交付要綱で事業実施主体への補助率(80%)が定められており、負担関係は妥当であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○補助金は、額の確定時において、事業目的達成の観点から現場確認及び支出等に関する書類により確認、委託料は、費目・使途が目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。

## 令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号 ・事業名	73	熱帯果樹優良種苗供給実証事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア-①		
担当部署名	農林水産部園芸振興課	事業実施 (予定)年度	H27 ~ R5 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	野菜・果樹・花卉類の生産振興 Ⅲ-1-(6)		
事業内容	生産現場で求められている熱帯果樹の優良種苗を効率的に普及し産地育成を図るため、有料種苗の増殖や企業等の種苗生産供給の試行を行う。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R6年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	10,554	0	10,027	0	5,939
		(b)予算現額	10,554	0	10,027	0	5,939
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d)前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	10,554	0	10,027	0	5,939
	執行額	B. 執行済額	10,449		9,539		5,888
		うち交付金充当額	8,359		7,631		4,710
		C. 次年度繰越額			0	0	0
	執行率(%) (B/A)	99.0%	#DIV/0!	95.1%	#DIV/0!	99.1%	
予算の状況の説明	執行率は、99.1%であり、使用量及び賃借料、需用費、旅費等の経費節減による不用額が発生したものである。						
活動目標 (指 標) 及び 進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	・熱帯果樹種苗生産供給体制の整備 (R2、3:ピタヤ、R4:パインアップル)	目標			1件	1件	1件
		実績			1件	1件	1件
	パインアップル種苗生産	目標					50,000本
		実績					50,000本
進捗状況説明	・熱帯果樹優良種苗供給体制構築のため県育成品種(パインアップル)の種苗増殖の実践等を1件行った。 ・種苗生産会社により、パインアップルの種苗を50,000本生産した。						
成果目標 (指 標) 及び 達成状況	R3成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (R6年度)
	・熱帯果樹優良種苗生産供給体制の整備	目標		1件	1件	1件	1件
		実績		1件	1件	1件	1件
	パインアップル種苗生産	目標					50,000本
		実績					50,000本
	【R6成果目標】 ・パインアップル新品種の種苗生産供給体制の自 走	目標					1件
達成状況説明	・種苗生産供給体制を構築するため、県育成品種の種苗の増殖を行った。 ・種苗生産会社により、パインアップルの種苗を50,000本生産した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	種苗法改正(登録品種の自家増殖許諾制の導入)に対応した種苗管理・増殖体制の整備と周知が必要である。	種苗法改正に伴う県の対応に即した種苗供給体制の整備を行い、体制の周知と理解の徹底を関係機関および生産者と図っていく必要がある。
<b>今後の取り組み方針</b>		
①生産実証に向けた供給体制の整備を円滑に進めるため、年度初めに当課所管事業の説明会や果樹担当者会議において協力を呼びかけていく。 ②種苗会社や関係機関等と連携しながら種苗配付体制の整備を図る。 ③種苗法改正の最新動向を関係機関と共有する。		



資金の流 れの点 検・費 目・評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流 れの点 検・費 目・評 価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者はパインアップル生産部会や育苗施設を有しており、種苗増殖体制が整っている等、適用基準を満たしているため、随意契約により締結した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については事業目的の達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適切であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

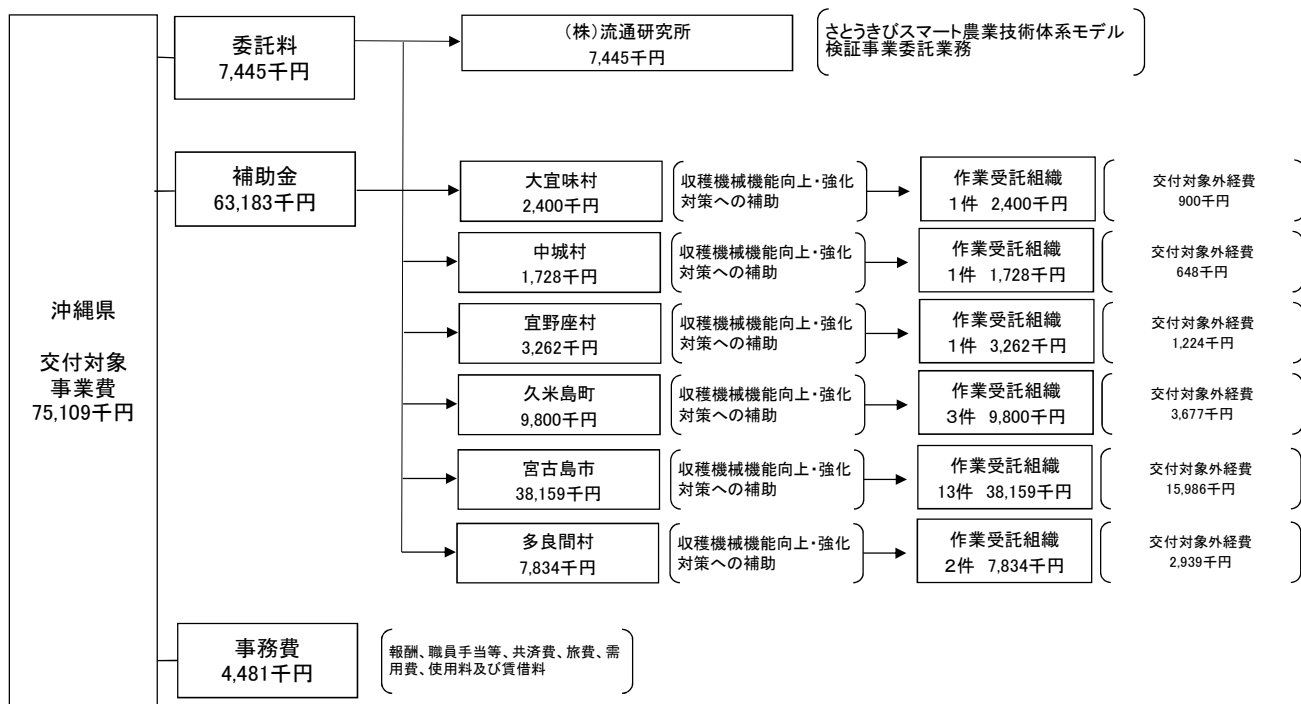
事業番号・事業名	77	さとうきび機械化一貫体系モデル事業		新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(7)-ア-③		
担当部署名	農林水産部糖業農産課	事業実施(予定)年度	H27 ~ R6 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	さとうきび等の安定品目の生産振興 Ⅲ-1-(6)		
事業内容	合理的なさとうきびの機械化一貫体系を確立し、基幹作業の受託体制強化による生産性の回復、安定化に向け、より一層の「飛躍的な省力化、作業効率化」を図るための取組を支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度( )						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	121,777		115,690		107,788
		(b)予算現額	121,777		115,690		76,389
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	▲ 31,399
		(d)前年度繰越額	0		0		
		A. 計(b+d)	121,777	0	115,690	0	76,389
	B. 執行済額		117,213		112,740		75,109
	うち交付金充当額		93,770		90,192		60,087
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0
	執行率(%) (B/A)		96.3%	#DIV/0!	97.5%	#DIV/0!	98.3%
予算の状況の説明		・さとうきび収穫機械機能向上支援事業補助金における実施申請取下げ(7件、▲24,920千円)に伴い、事業間流用を行った。 ・最終的な執行率は100%~95%となり、計画的に執行出来た。					
活動目標(指標)及び進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	①効率的な機能向上・強化対策への支援	目標	—	30台	31台	21台	
		実績	—	41台	28台	21台	
	②オペレータ確保・技能向上研修会の開催	目標	1地区	1地区	2地区	—	
		実績	2地区	2地区	2地区	—	
	③スマート農業技術の経営改善効果を評価する運営検討委員会の開催	目標	—	—	3回以上	—	
実績		—	—	4回	—		
④先進技術を活用するための研修メニューの創設	目標	—	—	—	1件		
	実績	—	—	—	1件		
進捗状況説明	①収穫機械機能向上・強化対策への補助について、6市町村(21台)で事業を実施し、概ね目標を達成出来た。 ②先進技術を活用するための研修メニュー創設に向けたスマート農業の導入及び利活用に係るハンズオン支援、「技術習得教材」等の作成を実施し、目標を概ね達成出来た。						
成果目標(指標)及び達成状況	R4成果目標(指標)		基準値(〇〇年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(〇〇年度)
	①ハーベスタ収穫率	目標	—	78.2%	80.4%	82.6%	
		実績	—	79.5%	82.6%	84.5%	
	②オペレータの研修育成者数	目標	—	20名	20名	—	
		実績	—	20名	54名	—	
	③農業経営改善効果モデル事例数	目標	—	—	1事例	—	
		実績	—	—	1事例	—	
④先進技術を活用に取り組み農業法人等率	目標	—	—	—	5%		
	実績	—	—	—	6.3%		
達成状況説明	①ハーベスタ収穫率については、保有台数387台に対する稼働率128%と利用効率が高く、前年実績を1.9ポイント上回る84.5%となり、目標以上の実績を達成出来た。 ④先端技術の利活用に取り組み農業法人等率については、令和4年3月時点の農業法人数(221件)に対して、自動操舵システムや生産管理システム等の導入件数が14件となったことで、目標以上の実績を達成出来た。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>他品目と同様に高齢化が進んでいることから、重労働である収穫や植付作業の委託(機械利用)に対する要望が増加している。</li> <li>植付作業の委託の際、植付用種苗を含めた包括的な植付作業への要望が高まっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度は連動する国庫事業(さとうきび農業機械等導入支援事業)の事業採択数が減少したことから、事業計画を下回った事業実施となった。</li> <li>品種構成の適正化が進んできているが、偏りの大きい地域がある。</li> </ul>

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>各地区さとうきび増産プロジェクト会議等関係機関が情報を共有する場で、地域の合意及び効率的・計画的な高性能農業機械導入について協議する。</li> <li>さとうきびにかかる地域毎の会議において、収穫機械化により生じた課題を協議し、具体的対策(株出管理展示ほ設置等)の実施により、生産性の維持向上を目指す。</li> <li>奨励品種の採用及び改廃を進め、新品種等の導入をさらに促進する。</li> </ul>

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
100,483	75,109	60,087	15,022	0	0	25,374



資金の流し、費目	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流し、費目	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、沖縄県随意契約ガイドラインに基づき選定しており、妥当である。 ○費用・使途は、事業目的達成の観点から額の確定に伴う事業完了検査時において、書類及び現地確認を適正に行っている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号 ・事業名	78	沖縄県産豚肉消費活性化事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(7)-ア-②			
				肉用牛・養豚の生産振興			
担当部課名	農林水産部畜産課	事業実施 (予定)年度	R2 ~ R6 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(6)		
事業内容	沖縄県のアグーブランド豚肉を県外消費者にPRすることでアグーブランド豚肉の認知度向上及び販路拡大を図る。						
効果発現年度	■当年度      ■後年度(令和6年度)						
実施方法	□直接実施    ■委託      □補助      □負担      □その他( )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	20,337	-	18,695	-	20,000
		(b)予算現額	20,337	-	18,695	-	20,000
		(c)増減額(b-a)	0	-	0	-	0
		(d)前年度繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)		20,337	-	18,695	-	20,000
	B. 執行済額		20,000	-	18,477	-	19,778
	うち交付金充当額		16,000	-	14,781	-	15,823
	C. 次年度繰越額		0	-	0	-	0
	執行率(%) (B/A)		98.3%	-	98.8%	-	98.9%
予算の状況の説明		<p>・令和4年度予算は、事業実施に係る委託料の経費を計上したところであり、令和3年度に比べ1,305千円増額となっているのは、直接人件費が増額したことによるものである。</p> <p>・執行率は約99%であり、概ね計画的に執行できた。</p>					
活動目標 (指 標) 及び 進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	SNS等を活用した県産豚肉の魅力発信	目標		-	2回	2回	
		実績		-	4回	3回	
	WEB商談会等への参加	目標		-	2回	2回	
実績			-	0回	6回		
進捗 状 況 説 明	<p>・「SNS等を活用した県産豚肉の魅力発信」及び「WEB商談会等への参加」について、目標値を達成した。</p> <p>※令和2年度は、有権者ヒアリング、消費者・事業者へのテストマーケティング等を実施し、県産銘柄豚の県外向け販売戦略の策定を行った。</p>						
成果目標 (指 標) 及び 達成状況	R4成果目標(指標)		基準値 (R3年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (R6年度)
	アグーブランド豚肉を県外に販売する商談の成立 件数:2件	目標	-	-	-	2件	-
		実績	-	-	-	21件	-
	【R6成果目標】 アグーブランド豚肉県外出荷量	目標					令和3年度比 6%以上増
達成 状 況 説 明	①令和4年度に実施したパイヤーツアーにより、アグーブランド豚肉を県外に販売する商談の成立件数が21件となり、目標を達成した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>アグーブランド豚は成長速度や歩留まりの悪さ等の要因から一般豚に比べ生産コストが高い。 また、県外へ流通する場合にも他地域の商品と比較し、配送コストが掛かる。</p>	<p>アグーブランド豚の販路拡大を進めるためには、コスト面でのデメリット以上に、魅力(付加価値)が備わった素材であるということを理解してもらう必要がある。 また、「高価格・高付加価値」の商品として親和性の高いターゲットを中心に販路開拓を進める。</p>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<p>①ブランディングの強化 アグーブランド豚の持つ歴史やストーリー、肉質、栄養成分等、付加価値となる情報を整理し、それを効果的に発信することで、バイヤーや消費者に信頼感を与え、導入や購買意欲の向上に繋げる。 ②有効なターゲットの選定 アグーブランド豚のような高付加価値な商品は高級レストランやホテル、百貨店など、高級志向の顧客層から需要が高いため、こうしたターゲットを中心とした販路開拓を進める。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
19,778	19,778	15,823	3,955	0	0	0
<pre> graph LR     A[沖縄県 交付対象事業費 19,778千円] --&gt; B[委託料 19,699千円]     B --&gt; C["(株)ノイズ・バリュー社 19,699千円"]     A --&gt; D[事務費 79千円]     D --- E["(需用費)"]   </pre>						
資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明			
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業務先の選定に当たっては、公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており妥当であったと考えている。			
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。				
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、事業報告書等进行检查し、適正である事を確認した。			
○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。					



令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	79	山羊消費供給安定化事業	新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(7)-ア			
担当部署名	農林水産部畜産課	事業実施(予定)年度	H30 ~ R7 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の強化 Ⅲ-1-(6)		
事業内容	1 飼養管理技術に関する検討会の開催 2 飼養管理技術の実証試験の実施 3 飼養管理技術に関する講習会の開催 4 飼養規模拡大に対する支援						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度( R7 年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・執行額 【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	20,836	—	18,263	—	10,766
		(b)予算現額	20,836	—	18,263	—	10,766
		(c)増減額(b-a)	0	—	0	—	0
		(d)前年度繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計(b+d)	20,836	—	18,263	—	10,766
	B. 執行済額		15,444	—	13,866	—	8,938
	うち交付金充当額		12,355	—	11,093	—	7,151
	C. 次年度繰越額		0	—	0	—	0
	執行率(%) (B/A)		74.1%	—	75.9%	—	83.0%
予算の状況の説明		・沖縄県産山羊肉の供給安定化を図るため、飼養規模の拡大に伴う課題の解決を目的に、令和4年度から新規事業(平成30～令和3年度で実施したおきなわ山羊改良基盤整備事業の後継事業)として、飼養管理技術の確立・普及(実証試験・講習会)及び飼養規模拡大推進に要する経費として需用費及び補助金等を計上した。 ・執行率は83.0%であり、主に報酬費の執行残が発生したことによるものである。					
活動目標(指 標)及び 進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	検討会の開催	目標	—	—	—	3回	
		実績	—	—	—	4回	
	飼養規模の拡大における課題を検証し、実用可能な飼養管理技術の実証を行う	目標	—	—	—	1件	
		実績	—	—	—	1件	
	飼養規模の小さい生産農家に対し、聞き取り調査を実施	目標	—	—	—	25件	
		実績	—	—	—	26件	
	飼養管理技術の実証試験の結果について、農家の飼養管理技術の向上を図るため、県内各地で技術講習会を開催する	目標	—	—	—	5回	
		実績	—	—	—	5回	
山羊家畜セリ市場において取引される繁殖山羊20頭について導入費を補助する	目標	—	—	—	20頭		
	実績	—	—	—	20頭		
進捗状況説明	・飼養管理技術に関する実証試験の内容案を検討し、試験の方針を決定するため、沖縄県山羊振興協議会及び専門委員会等を4回開催した。 ・検討会にて決定された飼養管理に関する実証試験を1件実施中である。 ・県内全域の山羊生産農家から飼養規模・管理及び増頭等について聞き取り調査を26件実施した。 ・山羊の飼養管理技術講習会を中南部・北部・宮古・八重山の各地域で計5回開催した。 ・県内の山羊セリにて各山羊生産部会が導入した優良山羊20頭に対して導入費用の助成を行った。						
成果目標(指 標)及び 達成状況	R4成果目標(指標)		基準値(R2年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(R7年度)
	実証試験計画策定件数1件	目標		—	—	1件	
		実績		—	—	1件	
	小規模農家(飼養頭数30頭未満)へ飼養規模拡大に関する課題について聞き取り件数25件及び実証試験実施件数1件	目標		—	—	聞き取り調査:25件 実証試験:1件	
		実績		—	—	聞き取り調査:26件 実証試験:1件	
	飼養管理技術に関する講習会の開催回数:年5回 講習会参加者数延べ150人	目標		—	—	開催数:5回 参加人数:150人	
		実績		—	—	開催数:5回 参加人数:56人	
	導入補助頭数20頭	目標		—	—	20頭	
		実績		—	—	20頭	
	【R7 成果目標】 優良種畜の増頭:80頭		目標				80頭
達成状況説明	①実証試験計画を1件策定した。 ②県内全域の山羊生産農家から飼養規模・管理及び増頭等について聞き取り調査を26件実施し、検討会にて決定された飼養管理に関する実証試験を1件実施中である。 ③山羊の飼養管理技術講習会を中南部・北部・宮古・八重山の各地域で計5回開催したが、目標の参加人数150人を達成できなかった。達成できなかった主な理由としては、地域ごとに飼養管理への関心度が異なるため、参加人数にばらつきが出たことによるものである。 ④県内の山羊セリにて各山羊生産部会が導入した優良山羊20頭に対して導入費用の助成を行った。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	①飼養管理技術講習会の参加人数に関して、地域ごとにばらつきが出ており、目標人数に満たなかった。 ②聞き取り調査の質問に対する農家の回答が思ったように得られないことがあったため、調査様式・質問内容の改善が必要である。	①講習会の内容や実施方法を各地域ごとのニーズに合わせていくことが必要である。 ②質問内容の精度及び様式を再度見直して、回答しやすい形式になるよう調整する。
<b>今後の取り組み方針</b>		
①講習会について、講習内容を農家のニーズに合わせ、開催周知を農家が多く集まる山羊セリにあわせて行えるよう各関係機関と調整し実施していく。 ②回答形式を記入方式より選択方式の比重を多くし直感的に回答できるように改善していく。質問内容については簡潔に分かりやすい文章へと変更する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
9,824	8,938	7,151	1,788	0	0	886

```

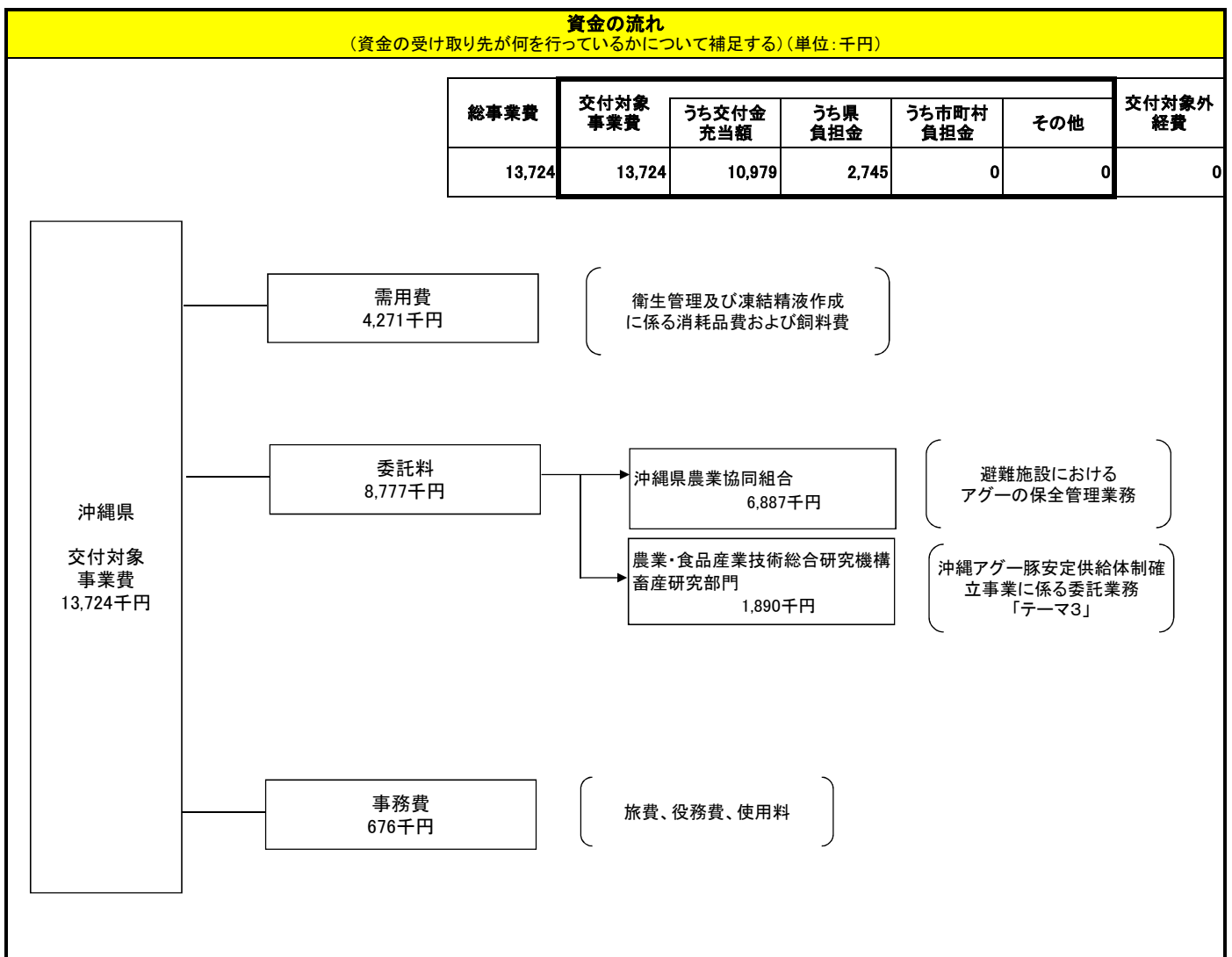
graph LR
    A[沖縄県 交付対象事業費 8,938千円] --> B[補助金 1,400千円]
    A --> C[事務費 7,538千円]
    B --> D[JAおきなわ山羊生産振興協議会]
    D --- E["(受益者負担分  
交付対象外経費)  
886千円"]
    C --- F["(報酬、共済費、旅費、  
需用費、役務費、職員  
手当等)"]
  
```

資金の流れ、費目・点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助事業者は、事業費の2割を負担し、事業内容や他の事業負担割合から判断しても妥当であった。 ○費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号 ・事業名	80	沖縄アグー豚保全体制構築事業		新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(7)-ア-②		
担当部署名	農林水産部畜産課	事業実施 (予定)年度	H28 ~ R8 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	肉用牛・養豚の生産振興		
事業内容	豚熱、アフリカ豚熱等の悪性伝染病の脅威から貴重な固有種であるアグーを守るため、アグーの分散および凍結技術により保全体制の構築を図る。						
効果発現年度	■当年度      ■後年度(R8年度)						
実施方法	■直接実施      ■委託      □補助      □負担      □その他( )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	13,530	—	15,011	—	20,354
		(b)予算現額	13,530	—	15,011	—	20,354
		(c)増減額(b-a)	0	—	0	—	0
		(d)前年度繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計(b+d)	13,530	—	15,011	—	20,354
	執行 の 状 況	B. 執行済額	11,396	—	14,731	—	13,724
		うち交付金充当額	9,117	—	11,785	—	10,980
		C. 次年度繰越額	—	—	0	—	0
	執行率(%) (B/A)		84.2%	—	98.1%	—	67.4%
予算の状況の説明		<p>・貴重な固有種であるアグーを守るため、令和4年度から新規事業(平成28~令和3年度で実施した沖縄アグー豚安定供給体制確立事業の後継事業)として、アグーの分散および凍結技術により保全体制の構築に要する経費を計上した。</p> <p>・執行率は67.4%であり、産子作出数が計画よりも少なく、その分飼料代が浮いたため、委託費の額確定により残が生じたことによるものである。</p>					
活動目標 (指 標) 及び 進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	保全体制構築についての検討	目標	—	—	—	2回	
		実績	—	—	—	2回	
	効率的な卵子採取法の調査検討	目標	—	—	—	3回	
実績		—	—	—	5回		
進捗 状 況 説 明	<p>・令和5年度以降の沖縄アグー豚に係る保全体制について、検討した。</p> <p>・優良アグー雌豚の高品質な卵子を1頭当たり53.3個採取した。</p>						
成果目標 (指 標) 及び 達成状況	R4成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (R10年度)
	保全体制の検討会議開催2回	目標				2回	2回
		実績				2回	2回
	高品質な卵子の採取:40個/頭 (R4)	目標				40個/頭	40個/頭
		実績				53.3個/頭	53.3個/頭
	【R10成果目標】 生産者と県が連携した保全体制の構築	目標					参加生産者 数 7人
	【R10成果目標】 アグーブランド豚肉の安定供給	目標					出荷頭数 3万頭/年
達成 状 況 説 明	<p>【R4成果目標】</p> <p>・沖縄県アグーブランド推進協議会生産部会を2回開催した。</p> <p>・優良アグー雌豚の高品質な卵子を1頭当たり53.3個採取した。</p>						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	
取組の検証	<p>令和2年1月に本県で豚熱が発生し、アグーの一部が殺処分された。今後も国内やアジアから家畜伝染病が侵入した場合、アグーが壊滅的な被害を受ける恐れがある。</p> <p>家畜伝染病が侵入しアグーが壊滅的な被害を受けても、保存した遺伝資源(凍結精子・卵子)を活用してアグー集団を再生復興できるような取り組みを検討する必要がある。</p>
今後の取り組み方針	
凍結精液、高品質な卵子採取技術を活用して受精卵を作成し、西洋豚に移植させる手法の再現性を検討する。	



資金の流れの点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○避難施設における保全管理業務は、契約の相手方が1社のみであったため、随意契約とした。研究業務委託は、企画提案審査会により選定したため、妥当であったと考えられる。 ○費用・用途については事業目的達成の観点から必要なものについて額の確定時の際に支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	82	自給飼料生産課題解決モデル事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第4章-3-(7)-ア		
担当部課名	農林水産部畜産課	事業実施 (予定)年度	H31 ~ R6 年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	おきなわブランドの確立と生産 供給体制の強化  Ⅲ-1-(6)	
事業内容	寒地型牧草の沖縄県内各地域に対応した栽培方法を確立するため、展示圃を沖縄県全域に設置し、精密な化学分析を行いながら生育状況調査を行う。また、展示圃を活用して農家向け現地検討会を実施する。						
効果発現年度	■当年度      ■後年度(令和12年度)						
実施方法	■直接実施    □委託    □補助    □負担    □その他( )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	5,041	—	4,788	—	3,891
		(b)予算現額	5,041	—	4,788	—	3,891
		(c)増減額(b-a)	0	—	0	—	0
		(d)前年度繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計(b+d)	5,041	—	4,788	—	3,891
	予算 の 状 況 の 説 明	B. 執行済額	2,613	—	2,978	—	2,943
		うち交付金充当額	2,091	—	2,382	—	2,354
		C. 次年度繰越額	0	—	0	—	0
		執行率(%) (B/A)	51.8%	—	62.2%	—	75.6%
<p>予算の状況の説明</p> <p>・寒地型牧草の沖縄県内各地域に対応した栽培方法を確立するため、令和4年度から新規事業(平成31~令和3年度で実施した自給型畜産経営飼料生産拡大普及推進事業の後継事業)として、寒地型牧草との作付体系の確立等に要する経費を計上した。</p> <p>・令和4年度の予算執行率は75.6%であり、主に、新型コロナウイルスの影響により、各出先機関において積極的な農家訪問等を行うことができず、旅費の執行残が出たことによる。</p>							
活動目標 (指 標) 及び 進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	実証展示圃設置(本島北部、中南部、宮古地区、八重山地区、伊江島、久米島)	目標				6地区	
		実績				6地区	
	実証展示圃における現地検討会及び農家向け見学会(各地区2回)	目標				12回	
実績					12回		
進捗状況説明	<p>・実証展示圃設置については、自給飼料技術確立検討協議会による計画策定により目標値を達成した。</p> <p>・実証展示圃における現地検討会及び見学会は、牧草の播種前に6地区1回、収穫時期に6地区1回、実施した。</p>						
成果目標 (指 標) 及び 達成状況	R4成果目標(指標)		基準値 (R2年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (R12年度)
	実証展示圃を用いての畜産農家向け現地検討会又は講習会の開催:12回以上(各地区2回以上)	目標				12	
		実績				12	
	検証内容(途中経過)の沖縄県ホームページでの公表(展示圃6箇所分)	目標				1	
		実績				0	
	【R12成果目標】 沖縄県内寒地型牧草作付面積 令和2年度比60ha増	目標					60ha増
	【R12成果目標】 ・沖縄県内全体の畜産経営における年間の飼料コスト低減額27,667千円(作付面積換算)	目標					△27,667千円
達成状況説明	<p>・令和4年度の目標値は県内6地区で各2回、合計12回とした。</p> <p>・令和4年度の実績については、目標どおり実施することができた。</p> <p>・ホームページでの成果の公表について、各地区で栽培した牧草の栄養価の解析遅れにより行っていない。解析ができ次第、県のホームページにて好評を行う予定。</p>						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実証展示園における試験区設定では、場当たりの設定により、試験区間の比較が困難になることが想定される。</li> <li>・新型コロナウイルスが感染症法上の5類感染症に移行することにより、農家訪問自粛の必要が無くなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実証展示園については、農家の意見を優先しつつ、年次変動の確認や栽培方法の比較が行えるような試験区設定を行う。</li> <li>・各機関において積極的な農家訪問等を行い、寒地型牧草の普及を進めていく。</li> </ul>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実証展示園における試験区設定については、年次変動の確認や栽培方法の比較が行えるように設定し、本県における寒地型牧草栽培マニュアルの作成に繋げていく。</li> <li>・農家への説明や、実証展示園の継続を通じ、寒地型牧草の普及拡大を進めていく。</li> </ul>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
2,943	2,943	2,354	589	0	0	0

沖縄県

交付対象事業費  
2,943千円

実証展示園設置等に係る経費  
2,943千円

報償費、旅費、  
需用費、役務費  
使用料及び賃借料

資金の用途の点検・費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	—	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各出先機関が実証展示園設置費として適切な規模であった。</li> <li>○費目・用途については、事業報告書等を検査し、適正である事を確認した。</li> </ul>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号 ・事業名	83	沖縄きのこ生産体制構築事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	3-(7)-ア-④			
担当部署名	農林水産部森林管理課	事業実施 (予定)年度	H31 ~ R6 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	林産物の生産振興		
事業内容	県外産きのこに依存しない県産きのこの生産体制構築を図るため、先行事業で選抜した県産アラゲキクラゲの品種登録申請に向けた試験栽培、栽培マニュアルの作成、非木質資源(バガス)を用いた栽培試験を行う。						
効果発現年度	■当年度      ■後年度(令和6年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	9,390		11,565		9,059
		(b)予算現額	9,390		11,565		9,059
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d)前年度繰越額					0
		A. 計(b+d)	9,390	0	11,565	0	9,059
	B. 執行済額		9,351		11,272		8,835
	うち交付金充当額		7,481		9,018		7,068
	C. 次年度繰越額		0		0		0
	執行率(%) (B/A)		99.6%	#DIV/0!	97.5%	#DIV/0!	97.5%
予算の状況の説明		・令和4年度予算は、事業実施に係る委託料の経費を計上したところであり、不用額は入札残及び旅費等実績精算によるものである。 ・執行率は97.5%であり、おおむね計画的に執行できた。					
活動目標 (指 標) 及び 進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	沖縄産アラゲキクラゲの品種登録申請書作成	目標				1式	
		実績				0式	
	アラゲキクラゲ栽培マニュアル(骨子)の作成	目標				1マニュアル (骨子)	
実績					1マニュアル (骨子)		
進 捗 状 況 説 明	・生産者や試験研究機関等との情報交換又は生産指導を実施した。 ・令和3年度まで実施した先行事業により2系統まで選抜された候補種菌について、森林資源研究センターで品種登録に向けた栽培試験を実施し、種菌の特性把握を実施した。 ・候補種菌の拡大培養及び管理ができそうな研究機関等の情報収集を実施した。						
成果目標 (指 標) 及び 達成状況	R4成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (〇〇年度)
	品種登録申請	目標				1件	-
		実績				0件	-
	達 成 状 況 説 明	・品種登録申請について必要な知見等が不足しているため、登録申請は次年度以降に見送った。 ・必要な知見等を得るため、森林資源研究センター及び琉球大学と連携し、温湿度等の発生環境調査を実施した。 ・効果的な試験研究を実施するため、有識者による検討委員会を実施した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	①本県の栽培に適した資材(おが粉)が安定的に調達できない。 ②品種選抜した種菌を効果的に普及するため、当該種菌の優位性を把握する必要がある。 ③品種登録後に、当該種菌を管理していく施設(技術者)が必要である。	①木質資源(おが粉)以外の県産資材(バガス)を活用した栽培手法を模索する必要がある。 ②品種選抜した種菌の特性を把握し、優位性を明らかにする。 ③種菌の管理方法、管理者等を検討する必要がある。
<b>今後の取り組み方針</b>		
①バガスを活用した栽培試験を実施し、当該栽培手法を現場に適用する際の課題を把握する。 ②栽培試験等を実施し、特性把握の根拠となる基礎データの収集を行う。 ③種菌について拡大培養、管理を実施できそうな県内の研究機関、企業、事業体などの情報収集を行う。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
8,835	8,835	7,068	1,767	0	0	0

```

    graph LR
      A["沖縄県  
交付対象事業費  
8,835千円"] --> B["委託料  
6,380千円"]
      A --> C["事務費  
2,455千円"]
      B --> D["(財)沖縄県環境科学センター  
6,380千円"]
      D --> E["再委託(琉球大学)  
579千円"]
      subgraph Note
        E --- F["バガス等非木質系資材を活用したアラゲキクラゲ栽培手法の検討"]
      end
      subgraph Context
        D --- G["令和4年度  
沖縄きのこ生産体制構築事業委託業務"]
      end
  
```

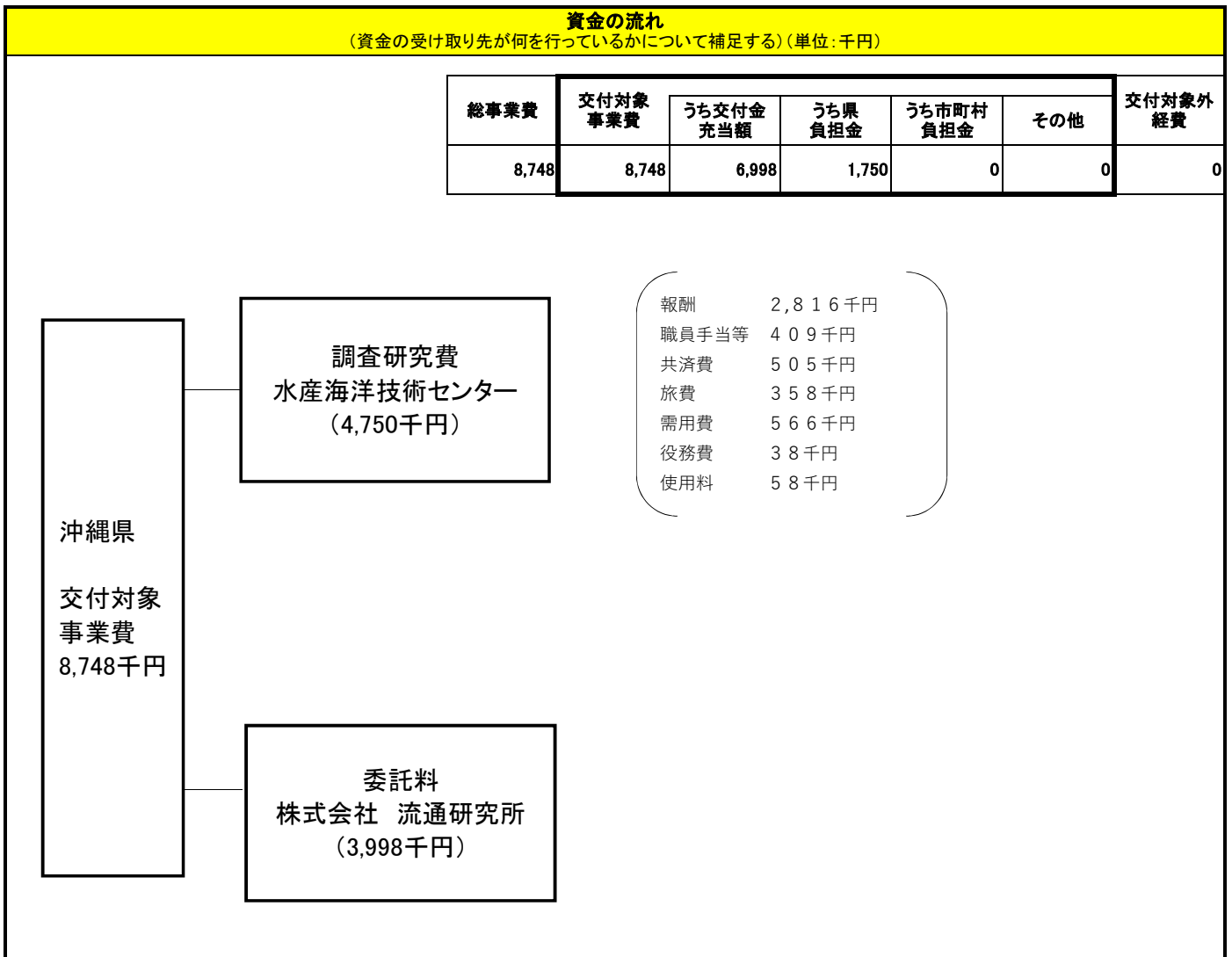
資金の 使途の 流れ、 費目 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、企画提案プロポーザル方式により選定したため、妥当であったと考える。 ○予算費目・使途については、事業報告書等を精査し、適正である事を確認した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



## 令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	85	サンゴ礁漁業におけるSDGsブランド化推進事業	新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(7)-ア-⑥			
担当部署名	農林水産部水産課	事業実施(予定)年度	H24 ~ R8 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	資源管理型沿岸漁業の振興		
事業内容	<p>資源管理の推進と高付加価値化を両立させるため、次のことに取り組む。</p> <p>【水技】 本事業で評価・支援を実施する資源管理策および対象団体を選定し、関連調査を開始する。</p> <p>【委託】 資源管理や持続可能性を競争力とした認証制度・ブランド化事例についての情報収集・整理業務を委託する。</p>						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和9年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・執行額 【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	6,541		6,410		11,403
		(b)予算現額	6,541		6,410		11,403
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d)前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	6,541	0	6,410	0	11,403
	B. 執行済額		6,207		6,252		8,748
	うち交付金充当額		4,965		5,002		6,999
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0
	執行率(%) (B/A)		94.9%	#DIV/0!	97.5%	#DIV/0!	76.7%
予算の状況の説明		会計年度任用職員の応募がなく、報酬、職員手当等に残が生じたため執行率は76.7%となった。					
活動目標(指標)及び進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	評価・支援を実施する資源管理策および対象団体を選定し、評価のための調査・研究計画を立案する。	目標				評価のための調査	
		実績				評価のための調査を実施	
	資源管理された水産物の高付加価値化戦略を検討するため、県外・国外の資源管理事例や、認証制度などについての情報収集・整理をおこない、モデルケースとなる事例を選定する。	目標				情報収集・整理	
実績					情報収集・整理を実施		
進捗状況説明	資源管理策および対象団体を選定し、評価のための調査を実施した。資源管理された水産物の高付加価値化戦略を検討するため、県外・国外の資源管理事例や、認証制度、ブランド化などについての情報収集・整理した。						
成果目標(指標)及び達成状況	R4成果目標(指標)		基準値(〇〇年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(〇〇年度)
	管理策についての調査研究計画を立案(2件以上)	目標				計画立案(2件以上)	
		実績				計画立案(2件)	
	持続的な水産物の付加価値化事例についての情報収集や、MSC、MEL等の認証についての情報収集を委託し、報告書を成果物として提出(1件)	目標				報告書の提出(1件)	
		実績				報告書を提出(1件)	
達成状況説明	支援団体選定と調査計画書2件作成した。MSC、MEL等の認証を取得した場合と、独自認証設定した場合について、それぞれ取得や維持に関するコストやメリット・デメリットを分析し、どの認証取得が現実的か結論した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	委託業務の契約が7月1日となったため、業務期間が約9ヶ月となっている。	委託契約をより早期に締結することで、業務期間に余裕を持たせる。
<b>今後の取り組み方針</b>		
引き続き資源評価の実施を行い、持続可能な生産プランの策定および評価を実施する。 認証取得候補の水産物のマーケティング調査を実施する。		

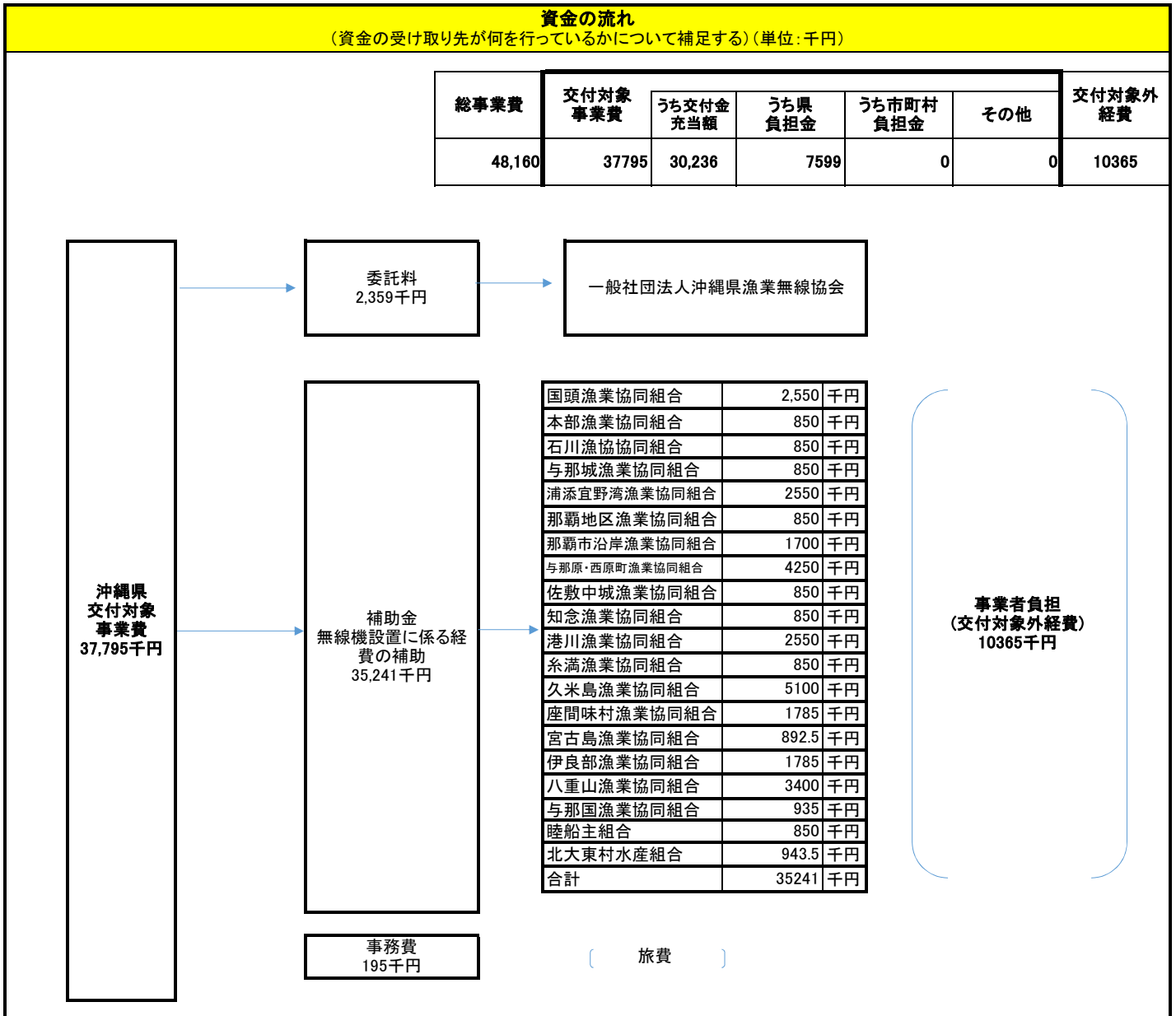


資金の流し、費目	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流し、費目	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、企画提案プロポーザルなど事業の内容によって選定したため、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、業務報告書・証憑書類等を検査し、適正である事を確認した。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	86	沖合操業の安全確保支援事業			新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア-⑥			
担当部課名	農林水産部水産課	事業実施 (予定)年度	H24 ~ R7 年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	資源管理型沿岸漁業の振興 III-1-(6)			
事業内容	海上での事故防止をはかるため、沖合で操業する漁船に対し、長距離用無線機設置を補助する。								
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度( R7 年度)								
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )								
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度			
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	32,801		44,046	0	41,571		
		(b)予算現額	44,046		175,365	175,365	44,046		
		(c)増減額(b-a)	11,245		131,319	175,365	2,475		
		(d)前年度繰越額							
		A. 計(b+d)	44,046	0	175,365	175,365	44,046		
	B. 執行済額		37,879		40,258	0	37,795		
	うち交付金充当額		30,303		32,206	0	30,236		
	C. 次年度繰越額		0		135,000	135,000	0		
	執行率(%) (B/A)		86.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	0.0%	85.8%		
予算の状況の説明		予算執行率は85.8%であり、主に無線機の入札残による。							
活動目標 (指 標) 及び 進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況						
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度			
	長距離用無線機を年間50台設置する(25W型41台、150W型1台)		目標	65台	33台	44台	42台		
			実績	70台	41台	44台	41台		
進捗状況説明	41隻の漁船に無線機(25W)を設置した。								
成果目標 (指 標) 及び 達成状況	R4成果目標(指標)		基準値 (R3年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (R6年度)		
			目標	59.0%		59.0%	64.0%	80.0%	
	長距離用無線機の整備率5ポイント増(R3:59%⇒R4:64%)		実績	59.0%		59.0%	63.0%		
	達成状況説明	42隻に無線機(25W)を設置し、令和3年度を基準に無線機設置率を59%から64%まで5ポイント高めた。							

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年の半導体需要の増加による、無線機の納期の遅れ</li> <li>・物価上昇による無線機単価の上昇</li> </ul>	昨年より、無線機委託業務のスケジュールを早めたり、メーカーとのやりとりを緊密に行う。
今後の取り組み方針		
無線機設置補助に係る補助金交付事務を迅速に行い、年度内に計画通りの整備をする。 物価高騰に対応できるよう積算資料を準備し適切な予算要求を行う。		



資金の用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の用途の点検評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者については、無線機を使用した安全操業指導等の業務に精通している無線取扱業者委託したものである。  ○漁業団体への補助金については、当該事業補助金交付要綱により適切に支出されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	70	特殊病害虫特別防除事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第4章-3-(7)-イ-③		
担当部署名	農林水産部営農支援課	事業実施 (予定)年度	H24 ~ R13 年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	特殊病害虫等の侵入防止 Ⅲ-1-(6)	
事業内容	特殊病害虫の侵入防止、根絶防除等のため、侵入警戒調査、侵入防止防除及び根絶防除等を実施する。						
効果発現年度	■当年度    □後年度(    年度)						
実施方法	■直接実施    ■委託    □補助    □負担    □その他(    )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	1,575,397		1,582,129		1,431,851
		(b)予算現額	1,575,397		1,582,129		1,376,534
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	▲ 55,317
		(d)前年度繰越額	0	213,595	0	80,018	
		A. 計(b+d)	1,575,397	213,595	1,582,129	80,018	1,376,534
	B. 執行済額		1,243,643	209,482	1,193,797	0	1,191,715
	うち交付金充当額		994,914	167,585	955,037	0	953,372
	C. 次年度繰越額		213,595	0	80,018	74,250	0
	執行率(%) (B/A)		78.9%	98.1%	75.5%	0.0%	86.6%
予算の状況の説明		<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該事業は、諸外国から侵入するミバエ類の侵入警戒及び防除を行っている。ミバエの誘殺があった場合は、臨時の現地調査や防除に要する経費が増加する。</li> <li>・ミカンコミバエの誘殺が多数確認されたため、臨時調査に係る支出が増大した。</li> <li>・臨時防除を実施する可能性が生じたことから、経費の節減に努めた。その後、誘殺が収まったため、委託料や需用費及び旅費等の執行残が不用となった。</li> </ul>					
活動目標 (指標) 及び 進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	ウリミバエ防除回数	目標	157	159	159	159	
		実績	159	160	161	157	
	ミカンコミバエ防除回数	目標	54	54	54	54	
		実績	69	55	55	55	
	ゾウムシ類防除回数	目標	326	326	326	326	
		実績	326	379	348	348	
	ナスミバエ防除回数	目標	2	2	2	2	
		実績	6	4	4	4	
進捗状況説明		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウリミバエの再侵入に備えるための不妊虫航空・地上放飼、果実調査等を概ね計画に沿って実施した。離島での航空放飼において、天候不良及び機械の不具合により2回中止となった。</li> <li>・ミカンコミバエの防除については、計画に沿った誘殺版による防除やトラップ調査及び果実調査を実施し、臨時防除を実施した。</li> <li>・ゾウムシ類防除は不妊虫大量増殖及び航空・地上放飼・寄主植物除去等を計画に沿って実施した。</li> <li>・ナスミバエ防除について、寄主植物調査等を計画に沿って実施した。</li> </ul>					
成果目標 (指標) 及び 達成状況	R4成果目標(指標)		基準値 (H23年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (R13年度)
	ウリミバエ緊急防除件数	目標	—	0件	0件	0件	—
		実績	—	0件	0件	0件	—
	ミカンコミバエ緊急防除件数	目標	—	0件	0件	0件	—
		実績	—	0件	0件	0件	—
	イモゾウムシ類根絶達成地区における緊急防除件数	目標	—	0件	0件	0件	—
		実績	—	0件	0件	0件	—
	ナスミバエ緊急防除件数	目標	—	0件	0件	0件	—
		実績	—	0件	0件	0件	—
	達成状況説明		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウリミバエについては、不妊虫放飼及び果実調査により再侵入を防ぐことができ、侵入警戒調査においても確認されなかったため目標を達成した。</li> <li>・ミカンコミバエについては、誘殺版設置及び果実調査を実施し、誘殺が確認されたものの目標を達成した。</li> <li>・イモゾウムシ類については、アリモドキゾウムシが根絶された久米島においては再定着を防止できている。また、津堅島において、アリモドキゾウムシを根絶した。</li> <li>・ナスミバエについては、発生地域の拡大が続いており、注意喚起等を行っているが、緊急防除は実施されていない。</li> </ul>				

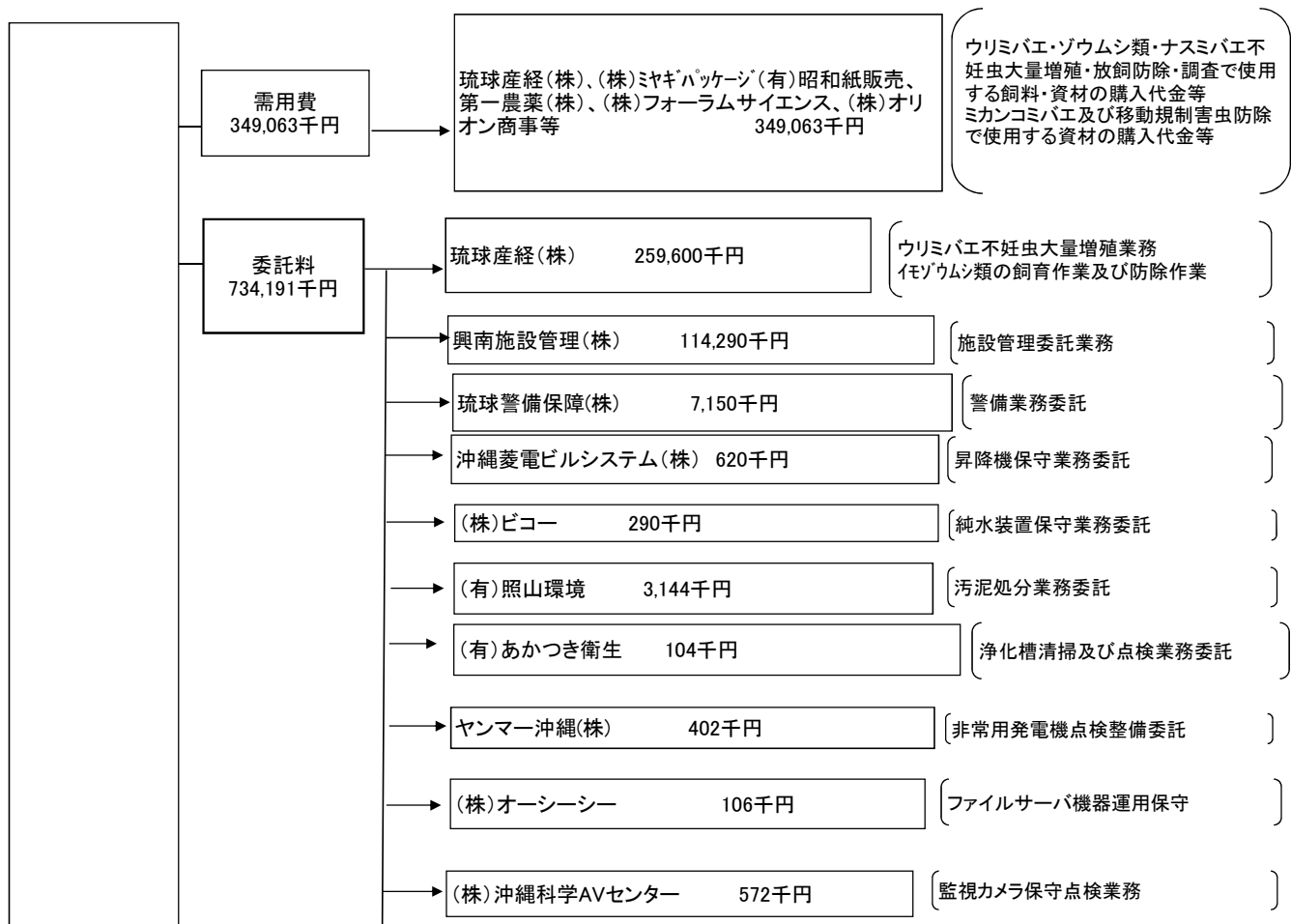
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウリミバエ不妊虫の放飼を中断することなく継続することが必要。修繕及び改築等により、機能維持に努める必要がある。しかし、ミカンコミバエの誘殺が多数確認された影響等により、計画の見直しを要している。</li> <li>・本県はミバエ類が発生している諸外国に近く、侵入リスクは非常に高い状況にある。ミカンコミバエ誘殺は毎年確認されており、市町村等との連携体制の維持が重要である。誘殺頭数が近年急増しており侵入リスクの高まりに警戒を要する。</li> <li>・津堅島のアリモドキゾウムシの根絶が達成されたことから、防除や調査を継続するとともに、防除員を配置し警戒にあたっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウリミバエ大量増殖等施設及び各放飼拠点施設の修繕・改築について、計画の翌々年に整備することを基本とするなど、状況の変化に対応できる計画期間を確保する。</li> <li>・侵入リスクの高まりが現象面で表現されていると感じており、発生地点確認や初動防除等の対応等、体制維持のためにも関係機関との連携強化に努める必要がある。</li> <li>・津堅島のアリモドキゾウムシの侵入警戒に向けて、引き続き関係機関との調査及び防除体制の連携を図りつつ、住民らに対する説明を徹底する必要がある。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

- ・ウリミバエ大量増殖等施設及び各放飼拠点施設の修繕について、予算確保と施工状況の把握により計画的な整備を行っていく。
- ・トラップ回収状況やテックス板設置状況の確認や改善を行い、侵入発見精度の維持を図る。
- ・津堅島におけるアリモドキゾウムシの根絶に向けて、関係機関との連携により再侵入防止とともに調査を実施する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち				交付対象外経費
		交付金充当額	県負担金	市町村負担金	その他	
1,191,726	1,191,715	953,372	238,343	0	0	11



沖縄県  
 交付対象  
 事業費1,191,715  
 千円

→	(株)安謝橋電機	689千円	(天井クレーン点検整備委託業務)
→	(株)沖縄環境保全研究所	1,485千円	(作業環境測定業務委託)
→	(一財)沖縄電気保安協会	990千円	(高圧受変電設備精密点検委託業務)
→	(株)沖縄環境分析センター	100千円	(建築物石綿調査分析業務)
→	(株)沖縄環境保全研究所	196千円	(増殖棟底のアスベスト調査)
→	川重ファシリテック(株)	2,266千円	(照射装置保守業務)
→	中日本航空株式会社	61,568千円 85,617千円	(沖縄群島におけるウリミバエ不妊虫航空放飼防除委託 八重山群島におけるウリミバエ不妊虫航空放飼防除委託)
→	沖縄県農業協同組合	2,955千円	(与那国町ウリミバエ不妊虫放飼等作業委託)
→	竹富町	5,363千円	(竹富町におけるミバエ調査作業)
→	中日本航空株式会社	55,061千円	(八重山群島におけるミカンコミバエ侵入防止航空防除)
→	竹富町	323千円	(竹富町ミカンコミバエ侵入防止航空防除に伴う地上作業)
→	沖縄県農業協同組合	102千円	(与那国町におけるミカンコミバエ侵入防止航空防除に伴う地上作業)
	国頭村	147千円	
	大宜味村	312千円	
	東村	235千円	
	今帰仁村	625千円	
	本部町	857千円	
	名護市	1,476千円	
	恩納村	427千円	
	宜野座村	304千円	
	金武町	422千円	
	伊江村	472千円	
	伊平屋村	73千円	
	伊是名村	80千円	
	うるま市	2,732千円	
	沖縄市	1,829千円	
	読谷村	671千円	
	嘉手納町	242千円	
	北谷町	424千円	
→	北中城村	362千円	
	中城村	292千円	
	宜野湾市	1,551千円	
	西原町	434千円	
	浦添市	1,569千円	
	那覇市	4,074千円	
	豊見城市	1,211千円	
	糸満市	879千円	
	八重瀬町	596千円	
	南城市	1,129千円	
	与那原町	205千円	
	南風原町	384千円	
	久米島町	411千円	
	渡嘉敷村	72千円	
	座間味村	73千円	
	渡名喜村	33千円	
	宮古島市	2,565千円	
	多良間村	113千円	
	石垣市	1,799千円	
	竹富町	849千円	
	与那国町	103千円	
		計 30,032千円	

ミバエ地上防除  
 作業委託  
 ミカンコミバエ防  
 除用誘殺版の設  
 置

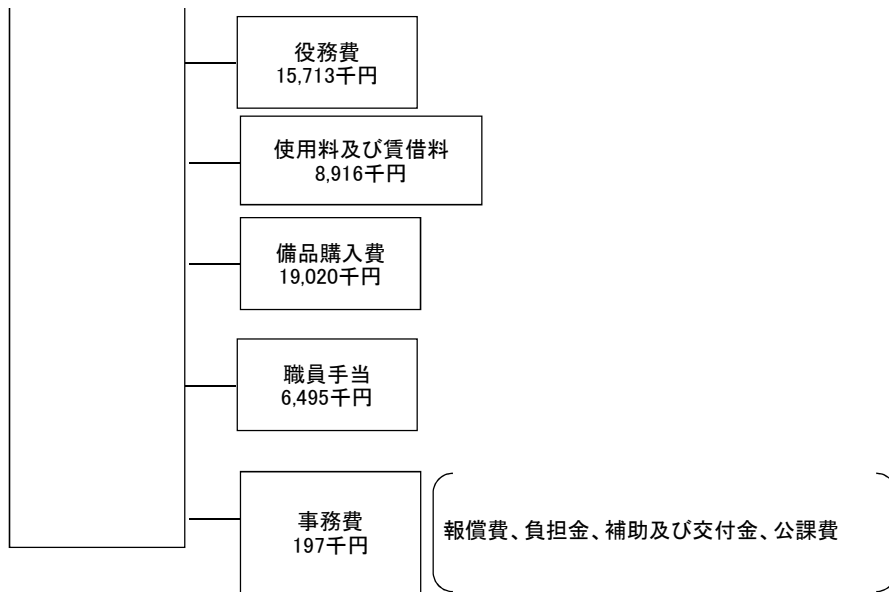
→	久米島イモゾウムシ等防除対策協議会 24,189千円	〔久米島におけるゾウムシ等根絶及び侵入防止事業に伴う業務委託〕
→	うるま市 6,722千円	〔津堅島におけるイモゾウムシ等の根絶事業に伴う業務委託〕
→	沖縄メディックス(株) 17千円	〔遺伝子解析によるミバエ類同定作業委託〕
→	沖縄メディックス(株) 90千円	〔ミカンコミバエ种群遺伝子配列解析〕
→	沖縄メディックス(株) 300千円	〔ミカンコミバエ种群遺伝子配列解析〕
→	沖縄メディックス(株) 129千円	〔ミカンコミバエ种群遺伝子配列解析〕
→	沖縄メディックス(株) 450千円	〔ミカンコミバエ种群遺伝子配列解析〕
→	沖縄メディックス(株) 129千円	〔ミカンコミバエ种群遺伝子配列解析〕
→	沖縄メディックス(株) 48千円	〔ミカンコミバエ种群遺伝子配列解析〕
→	沖縄メディックス(株) 202千円	〔ミカンコミバエ种群遺伝子配列解析〕
→	沖縄メディックス(株) 222千円	〔アリモドキゾウムシ遺伝子配列解析〕
→	三和産業 44千円	〔産業廃棄物処理委託業務(金属屑)〕
→	第一農業(株) 12,487千円	〔ナスミバエ大量増殖等に係る業務委託〕
→	沖縄県農業協同組合 15,559千円	〔宮古群島ウリミバエ不妊虫放飼センター作業委託〕
→	宮古ビル管理株式会社 290千円	〔宮古群島ウリミバエ不妊虫放飼センター塵芥処理業務委託〕
→	沖縄県農業協同組合八重山支店 37,620千円	〔八重山群島ウリミバエ不妊虫放飼センター業務委託〕
→	(株)沖縄ダイケン 198千円	〔八重山群島ウリミバエ不妊虫放飼センター自家用電気工作物保安全管理業務〕
→	石垣環研有限会社 264千円	〔八重山群島ウリミバエ不妊虫放飼センター塵芥処理委託業務〕
→	セコム琉球(株) 251千円	〔八重山群島ウリミバエ不妊虫放飼センター警備業務〕
→	株式会社 たけしょう 282千円	〔八重山群島ウリミバエ不妊虫放飼センターネズミ・衛生害虫駆除委託〕
→	合資会社 環境設計無限 1,673千円	〔病害虫防除技術センター空調配管・高架水槽・地下重油タンク等改修工事設計業務〕

報酬  
31,085千円

共済費  
5,738千円

旅費  
21,297千円





資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者に対しては、実績や入札により適正に決定した。 ○費目・使途については、事業達成の観点から、必要なものなのかどうか額の確定時において支出等に関する書類検査の上、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号 ・事業名	65	地域農林水産物活用支援事業		新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ウ-③		
担当部署名	農林水産部流通・加工推進課	事業実施 (予定)年度	H30 ~ R6 年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	食品産業など他産業との連携による農 林水産物の付加価値向上  Ⅲ-1-(6)	
事業内容	県産農林水産物を活用した「売れる商品」づくりに継続的に取り組むことのできる事業者の育成および他産業との連携強化支援を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	26,362		25,044		29,768
		(b)予算現額	26,362		25,044		29,768
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d)前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	26,362	0	25,044	0	29,768
	B. 執行済額		23,271		24,298		27,665
	うち交付金充当額		18,617		19,439		22,132
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0
	執行率(%) (B/A)		88.3%	#DIV/0!	97.0%	#DIV/0!	92.9%
予算の状況の説明		・県産農林水産物を活用した商品開発に取り組む事業者を育成するため、令和4年度から新規事業(平成30年度～令和3年度で実施した6次産業化人材育成活性化事業の後継事業)として、人材育成や事業者が行う商品開発の取組みを支援するための経費として委託料及び補助金等を計上した。 ・執行率は92.9%であり、主に補助金の執行残が発生したことによるものである。					
活動目標 (指 標) 進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	個別支援事業者数	目標			10事業者	5事業者	
		実績			12事業者	11事業者	
	加工品グランプリの開催	目標	1回	1回	1回	1回	
		実績	1回	1回	1回	1回	
	他産業との連携	目標				2件	
		実績				6件	
	【R3活動目標】研修会	目標			5回		
		実績			6回		
	【R2活動目標】6次産業化人材育成研修の開催 (1事業者あたり)	目標	3回	3回			
		実績	4回	4回			
	【R2活動目標】地域連携検討会 1回	目標	1回	1回			
実績		1回	1回				
【R2活動目標】補助事業実施件数	目標	5件	5件				
	実績	4件	3件				
進捗状況説明	・公募によって15事業者応募があったうち、11事業者を選定し、支援事業者として、各々の課題に応じた専門家による個別研修をリアルとオンラインで計4回程度実施した。 ・2月に加工品グランプリを開催した。審査員として県内外のバイヤーを招聘し、出展事業者による商品PRの場を設けることで商品の販路拡大に取り組んだ。 ・農林漁業者等と連携した6事業者(加工・製造・飲食業者)について、商品開発の取組みを支援した。						

成果目標（指標） 達成状況	R4成果目標（指標）	基準値 （〇〇年度）	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 （〇〇年度）
	商談等成立件数	目標 実績			3件 4件	3件 5件
【R2成果目標】①6次産業化人材育成研修	目標 実績		5事業者 14事業者			
【R2成果目標】②加工品グランプリの開催	目標 実績		1回 1回			
【R2成果目標】③地域連携モデルの育成	目標 実績		1件 2件			
【R2成果目標】④支援対象商品の売上増加率	目標 実績		5%/年 120%/年			
【R2成果目標】⑤6次産業化関連事業の従事者数	目標 実績		5,600人 4,600人			
達成状況説明	支援対象となった11事業者について、専門家による個別支援や加工品グランプリ審査員へのパイヤー招聘等を通じて、商談の場を提供したところ、5件の取引が成立した。					

R4-No.65

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
		<ul style="list-style-type: none"> <li>6次産業化の取り組みには、生産から加工、流通までの専門的な知識や経験などの「ノウハウ」が必要であるが、事業者単体では持続的、一貫した取り組みを維持することが困難な場合がある。</li> <li>ノウハウの習得に向けた人材育成の支援や、地域との連携体制の構築支援が求められる。</li> </ul>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>事業者の課題に応じて専門家による指導（個別相談、ハンズオン支援等）を行い、商品改良の実践や、商品開発に関する技能を習得するための研修会やテストマーケティング等の販路開拓を通じて自動化をサポートする。</li> </ul>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
総事業費	交付対象事業費	うち交付金 充当額	うち県 負担金	うち市町村 負担金	その他	交付対象外 経費
31,227	27,665	22,132	5,533	0	0	3,562
<pre> graph TD     A[沖縄県 交付対象事業費 27,665千円] --&gt; B[委託料 22,025千円]     A --&gt; C[補助金 5,481千円]     A --&gt; D[事務費 159千円]     B --&gt; E[コンソーシアム/(株)アール・ピー・アイ、沖縄セルラーアグリ&amp;マルシェ(株) 22,025千円]     C --&gt; F[有限会社伊江食品 972千円]     C --&gt; G["(株)マキ屋フーズ 1,352千円"]     C --&gt; H[ヤラブの木 1,500千円]     C --&gt; I[あまいの大好き!農園 751千円]     C --&gt; J[農業生産法人(株)川平観光農園 906千円]     D --&gt; K[旅費]     E --- L[地域農林水産物活用支援事業委託業務]     F --- M[交付対象外経費 627千円]     G --- N[交付対象外経費 875千円]     H --- O[交付対象外経費 994千円]     I --- P[交付対象外経費 488千円]     J --- Q[交付対象外経費 578千円] </pre>						

資金の 用途の 流れ、 点検、 評価、 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を考慮した上で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○補助事業者の自己負担率は1/3であり、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、用途については事業完了検査の際に帳簿等を確認し、事業目的に合致していることを確認しており、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

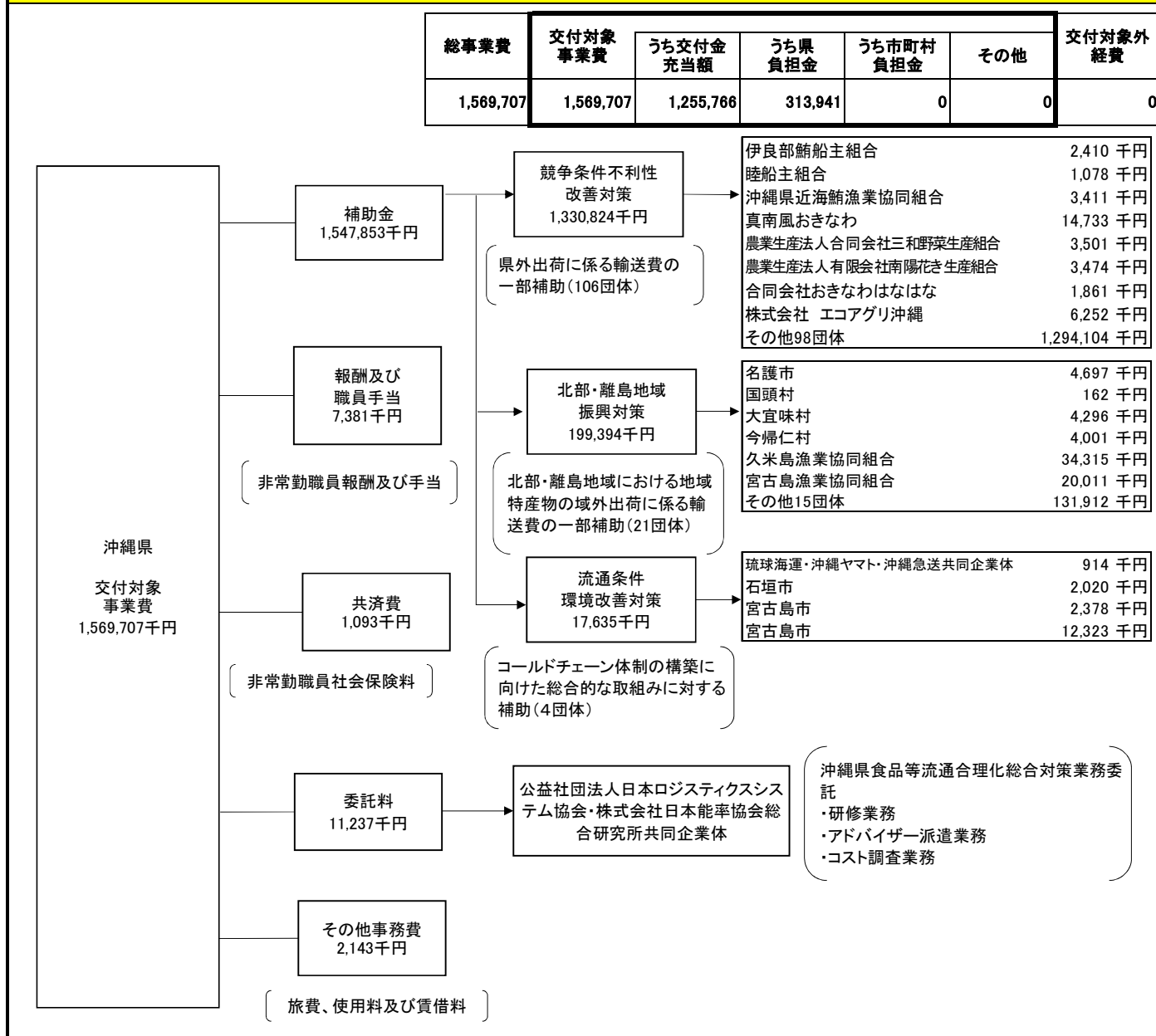
## 令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	66	農林水産物条件不利性解消事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(7)-ウ-①				
担当部署名	農林水産部流通・加工推進課	事業実施 (予定)年度	H24 ~ R13 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	農林水産物の輸送コストの低減 対策及び総合的な流通の合理化 Ⅲ-1-(6)			
事業内容	本土との直接的結束点をもたない構造的な地理的不利性による取引条件の抜本的な改善を図るため、①他産地との価格形成に関する競争条件の平準化を図るための輸送費の補助、②北部・離島地域における条件不利性の改善を図るため域外出荷コストの輸送費相当分を補助、③持続可能な流通構造の確立に向けてモーダルシフトの促進を図るための必要な措置を実施する。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )							
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度		
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	2,824,975		2,824,292		2,178,055	
		(b)予算現額	2,876,975		2,824,292		2,068,055	
		(c)増減額(b-a)	52,000	0	0	0	▲ 110,000	
		(d)前年度繰越額						
		A. 計(b+d)	2,876,975	0	2,824,292	0	2,068,055	
	B. 執行済額		2,666,583		2,504,298		1,569,707	
	うち交付金充当額		2,133,266		2,003,438		1,255,766	
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		92.7%	#DIV/0!	88.7%	#DIV/0!	75.9%	
予算の状況の説明		執行率は75.9%であり、天候不良等により生産量が減少したことや、令和4年度から始まった委託事業や流通条件環境改善対策事業が事業初年度のため事業期間が短くなったこと等により当初の見込みを下回った。						
活動目標 (指 標) 及び 進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	①県産農林水産物の県外出荷量 (64,000トン)のうち(32,800トン)	目標	56,800トン	58,400トン	60,000トン	32,800トン		
		実績	49,489トン	47,678トン	47,497トン	30,232トン		
	②県産農林水産物の県外出荷量 (64,000トン)のうち(12,800トン)	目標	14,200トン	14,600トン	15,000トン	12,800トン		
		実績	12,372トン	11,919トン	11,874トン	6,270トン		
	③事業体アドバイザー派遣支援 (3事業体)	目標				3事業体		
		実績				1事業体		
	④地域アドバイザー派遣支援 (3市町村)	目標				3市町村		
		実績				0市町村		
⑤幹線共同輸送体制構築支援 (5事業体)	目標				5事業体			
	実績				0事業体			
⑥幹線コールドチェーン実証モデル支援 (2事業体)	目標				2事業体			
	実績				1事業体			
⑦地域間輸送体制構築支援 (3市町村)	目標				3市町村			
	実績				0市町村			
⑧地域コールドチェーン実証モデル支援 (3市町村)	目標				3市町村			
	実績				3市町村			
進捗状況説明		<ul style="list-style-type: none"> <li>・①、②については、天候不良等の影響があり、目標を下回った。</li> <li>・③～⑦については、事業初年度ということもあり、補助事業者や市町村が事業への応募を見送ったこと等により、目標を下回った。</li> <li>・⑧については、離島3市(宮古島市2部門、石垣市)から応募があり、各市において水産関係や青果関係のコールドチェーン実証事業を開始した。</li> </ul>						
成果目標 (指 標) 及び 達成状況	R4成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (〇〇年度)	
	県外出荷販売額(前年度比)	目標				1.01		
		実績					1.04	
	船舶輸送比率	目標					64%	
		実績					61%	
達成状況説明		<ul style="list-style-type: none"> <li>・県外出荷販売額については、前年度比1.04となっており、目標を達成しており、本事業をとおして、輸送コスト負担の軽減が図られ、出荷先の開拓や出荷時期の拡大などの新たな取り組みにつながったものと考えられる。</li> <li>・船舶輸送比率については、天候不良等により船舶輸送が中心のモズク等の生産が減少したため、目標値を下回った。</li> </ul>						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	①本事業は台風や自然災害等の影響により、年間出荷量が不安定となる。 ②輸送コストの軽減による販路拡大や新規出荷先の開拓等の効果が見られるが、事業の効果的な実施のため、より一層、事業者が行う輸送コスト削減の取組を促進する必要がある。 ③国において、生産年齢人口減やドライバー不足等を踏まえ、持続可能な物流ネットワークの構築の取組み等を推進する総合物流施策大綱(2021→2025)が策定された。	①出荷量を安定させるため、台風や自然災害等による影響を最小限に抑える取組を行う必要がある。 ②販路拡大による効果を継続していくため、品質向上や安定的な生産体制の構築、スケールメリットを生かした輸送コスト削減のための共同出荷促進等の取組みを事業者へ促していく必要がある。 ③国の総合物流施策大綱(2021→2025)に照らし、県産農林水産物の流通合理化を総合的に推進する必要がある。

今後の取り組み方針
①台風や自然災害等による影響を避けるための施設整備や作付け、出荷時期の検討等について取り組むよう関係機関と連携を図りながら事業者へ促していく。 ②③事業実績・事業効果を検証するほか、輸送コスト削減等に関する研修会の実施、事業者に対して安定的な生産体制の構築や県外出荷の共同出荷等の流通合理化に関する取組等を促していく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流、点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流、点検評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○交付申請書等から補助事業者の要件を確認し、適切に選定した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○補助額については、輸送実績を示す書類を確認した。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○委託業務先の選定にあたっては、公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会・株式会社日本能率協会総合研究所共同企業体は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	67	県産農林水産物輸出体制構築事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	3-(7)-ウ-②			
担当部署名	農林水産部流通・加工推進課	事業実施 (予定)年度	H30 ~ R6 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	多様なニーズに対応する戦略的な販路拡大と加工・販売機能の強化		
事業内容	海外市場における県産農林水産物の輸出体制構築を目指し、定番化プロモーション、ブランディング強化、新規市場調査、輸出産地支援等を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )						
予算額・執行額 【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	47,646		45,263		26,789
		(b)予算現額	47,646		45,263		26,789
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d)前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	47,646	0	45,263	0	26,789
	B. 執行済額		43,430		37,508		24,425
	うち交付金充当額		34,744		30,007		19,540
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率(%) (B/A)		91.2%	#DIV/0!	82.9%	#DIV/0!	91.2%
予算の状況の説明		・執行率は91.2%であり、新型コロナウイルス感染拡大の影響による委託料及び旅費の執行残によるものである。					
活動目標(指標)及び進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	ブランディング、PR等実施	目標	5回	5回	3回	5回	
		実績	5回	4回	5回	11回	
	県産畜産物販売促進活動	目標	10回	10回	4回	4回	
実績		19回	16回	19回	13回		
進捗状況説明	・香港、シンガポールにおける県産農林水産物を中心とした認知度向上・定番化促進事業により、沖縄からの農林水産物の輸出実績は令和4年は48.0億円となり、前年より18.3%増加した。 ・豚熱の影響により豚肉が輸出出来ない状況であるため、牛肉、鶏卵、畜産物加工品を中心に販路拡大に努めた。						
成果目標(指標)及び達成状況	R4成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (〇〇年度)
	沖縄からの農林水産物及び加工品の輸出額	目標		35億円	35億円	33.1億円	
		実績		32.1億円	40.5億円	48.0億円	
	輸出に結びついた事業者の件数	目標				5件	
		実績		16件	12件	21件	
	県産畜産物輸出货量	目標		95.6トン	283.3トン	398.4トン	
		実績		312.2トン	424.9トン	219.6トン	
達成状況説明	・新型コロナウイルス感染症の影響が残るなか、海外シェフやバイヤーを沖縄に招聘して生産地案内を行ったり、海外量販店における沖縄コーナーを設置したり、沖縄と海外をオンラインでつないで県産食材提案会を実施するなど工夫して事業を実施した。 ・県産畜産物輸出货量については、令和4年12月に本県で発生した鳥インフルエンザの影響で鶏卵の輸出がストップしたことなどにより、令和4年度実績が219.6トンとなり、昨年度実績と比較し52%減となった。						

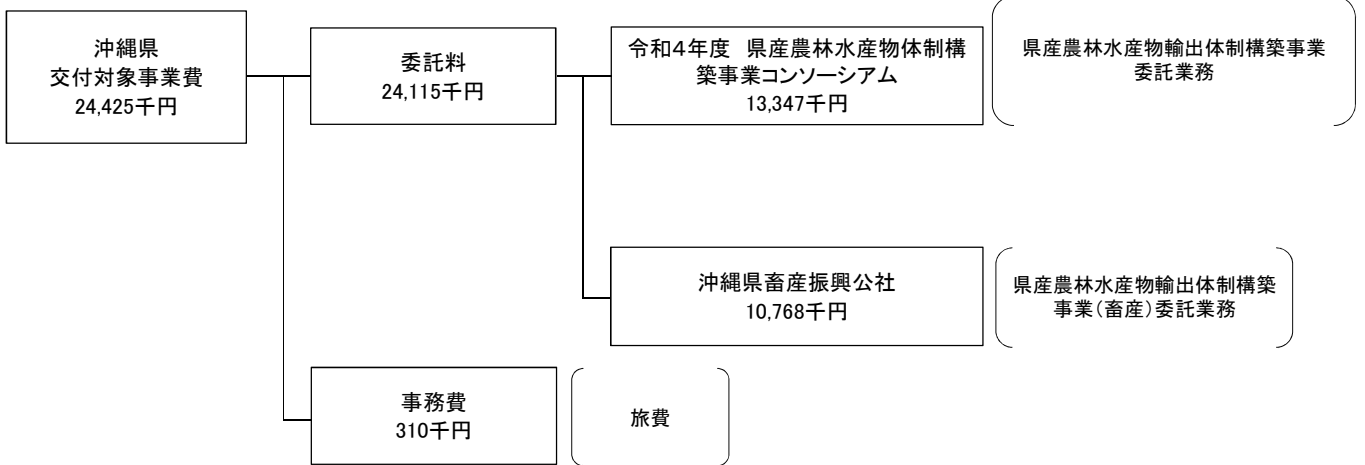
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	①世界的な新型コロナウイルスの感染拡大により、現地の飲食店等での需要は厳しい状況である一方、量販店やネット通販等での需要は好調なケースが見られる。 ②海外市場については他国産や日本の他県との競争も激化しており、県産農林水産物の定番化が厳しい状況にある。 ③畜産物の輸出に関して、商流や商法の違いを理解する必要があり、現地の畜産物流通状況や食文化に熟知した機関との関係構築が必要である。 ④沖縄県における豚熱の発生により、生鮮豚肉の輸出が停止されたため、生産豚肉以外の販売促進が必要である。	①好調な量販店やネット通販向けの新たな県産農林水産物の提案が必要である。 ②他産地との差別化を図るため、さらなる県産農林水産物のブランディングが必要である。 ③現地での畜産物販売事例、流通状況や広報活動を調査し取引に関する慣行及び検疫に関する制度の調査を実施する。 ④カントリーリスク低減のため、新規市場開拓に向けた調査を行い、輸出先として見込みのある国に対し定番化を目指した取組を行う。

**今後の取り組み方針**

- ①生産者の輸出モチベーション向上を促し、新たな産品を輸出できる体制を構築する。
- ②他産地との差別化を図るため、さらなる県産農林水産物のブランディングに向けて継続した情報発信を行う。
- ③新規市場での市場価格や流通経路等の調査、現地販売員の指導、消費者へのPR活動を行う。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付対象事業費の内訳				交付対象外経費
		うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	
24,425	24,425	19,540	4,885	0	0	0



資金の流し、費用の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業務先の選定にあたっては、県産農林水産物輸出体制構築事業共同体は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、また、沖縄県畜産振興公社は組織、実績、知識等を勘案した上で随意契約により選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費用・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

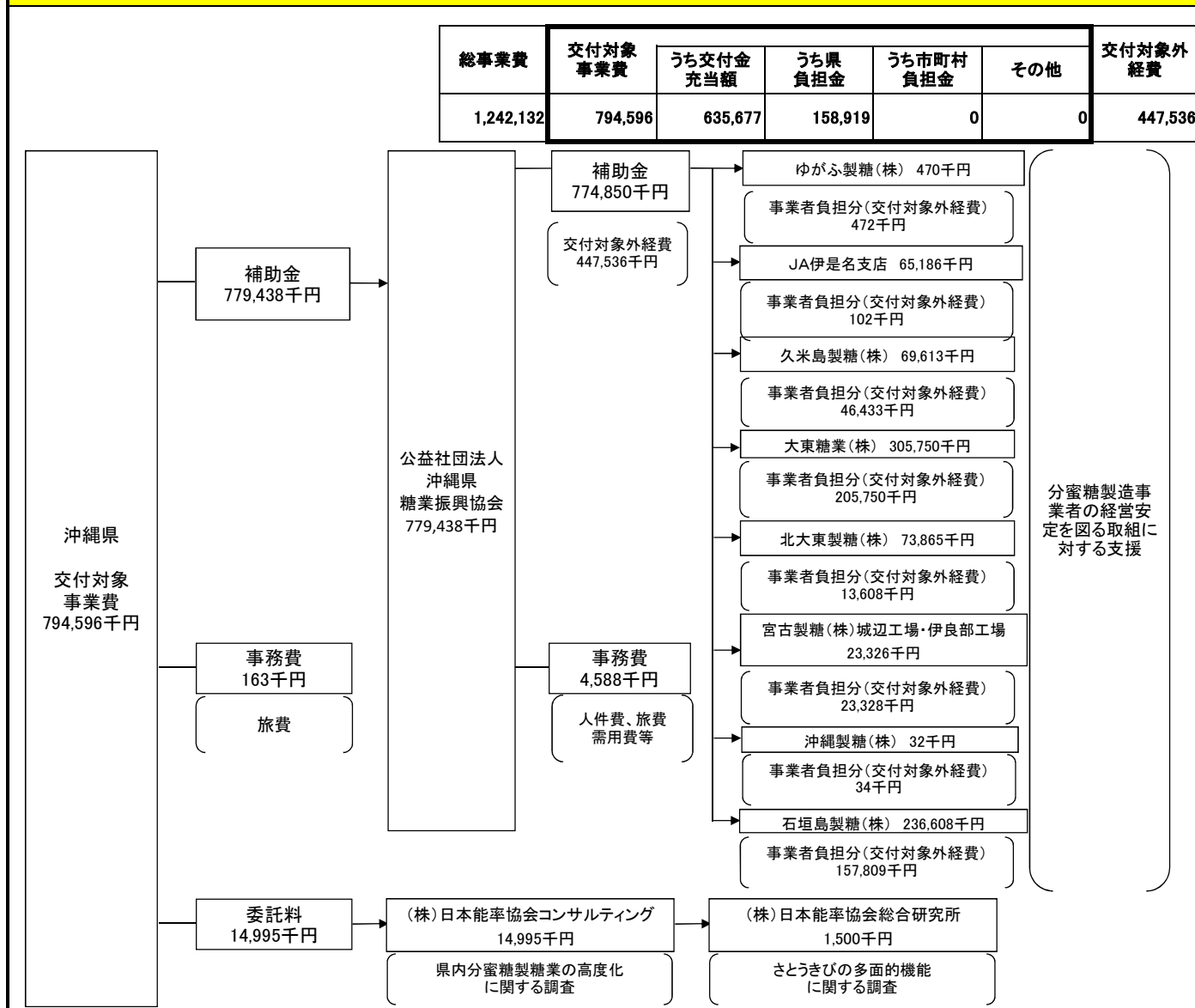
事業番号 ・事業名	74	分蜜糖振興対策支援事業費		新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(7)-ウ-⑤		
担当部署名	農林水産部 糖業農産課	事業実施 (予定)年度	H24 ~ R13 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	製糖業の経営基盤強化と高度化推進 Ⅲ-1-(6)		
事業内容	さとうきび生産農家の収入を確保するため、分蜜糖製造事業者に対して、気象災害等による製造コスト上昇分の支援、製糖設備の整備支援等を行う。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(5年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	934,586		848,316		1,184,108
		(b)予算現額	934,586		647,022		795,224
		(c)増減額(b-a)	0	0	▲ 201,294	0	▲ 388,884
		(d)前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	934,586	0	647,022	0	795,224
	B. 執行済額		934,060		638,406		794,596
	うち交付金充当額		747,248		510,725		635,677
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率(%) (B/A)		99.9%	#DIV/0!	98.7%	#DIV/0!	99.9%
予算の状況の説明		・気象災害等影響緩和対策において、当初計画の生産見込数量に対し、さとうきびの生産実績が増加したことによる支援額の減少や、製造合理化対策において、予定していた1工場が事業を取り下げたこと等により不用額が見込まれることから、388,884千円減額し予算現額は795,224千円となっている。 ・執行率は99.9%であり、気象災害影響緩和対策等の取り組み以外は、計画通り執行できた。					
活動目標 (指 標) 及び 進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	①気象災害等影響緩和対策	目標	6工場	4工場	9工場	9工場	
		実績	4工場	5工場	9工場	9工場	
	②製造合理化対策	目標	5工場	4工場	3工場	5工場	
		実績	4工場	4工場	4工場	4工場	
	③離島条件格差是正補填対策	目標	2工場	2工場	2工場	2工場	
		実績	2工場	1工場	1工場	2工場	
	④分蜜糖工場の高度化に関する調査	目標	-	-	-	1件	
		実績	-	-	-	1件	
進 捗 状 況 説 明	・気象災害等影響緩和対策については、気象災害等による影響が少なく、分蜜糖製造コストが増嵩し対策を要する製糖工場は3工場であったが、新型コロナウイルスの影響による新たな生活様式の実施・導入を行ったため、実績値は9工場となった。 ・製造合理化対策については、4工場で実施し、全て年度内に完了することができた。 ・離島条件格差是正補填対策については、当初計画どおり小規模離島の2工場で実施となった。 ・沖縄本島における分蜜糖工場の高度化に関する調査を1件行った。						
成果目標 (指 標) 及び 達成状況	R4成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (R5年度)
	全量買い入れを行った分蜜糖製糖工場	目標	-	9工場	9工場	9工場	9工場
		実績	-	9工場	9工場	9工場	-
	分蜜糖工場の高度化に関する基礎資料の作成	目標	-	-	-	1件	-
		実績	-	-	-	1件	-
	達 成 状 況 説 明	・全量買い入れを行った分蜜糖製糖工場は、9工場となり、目標達成できた。 ・分蜜糖製造事業者に対し、気象災害等影響緩和対策、製造合理化対策等の支援を過年度から継続して実施した結果、製糖期間を通じて分蜜糖製糖工場の適正操業が図られており、さとうきび生産農家の経営安定及び地域社会の維持・形成に寄与している。 ・沖縄本島における分蜜糖工場の高度化に関する調査を行い、沖縄本島におけるさとうきびの将来像及び製糖副産物の利活用にかかる可能性についての基礎資料の作成ができた。					



取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施主体である(公社)沖縄県糖業振興協会や分蜜糖製造事業者、関係団体等と連携し、当初計画の調整・精査、定期的な執行状況の把握等、事業執行体制の強化に取り組んだことにより、円滑かつ適正な事業執行が図られた。</li> <li>・分蜜糖製造事業者は、製糖工場の適正操作を図るため、製糖操業終了毎に設備のメンテナンスや老朽化に伴い使用限界にある設備の更新等、設備投資が必要不可欠である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的な事業執行及び事業効果の早期発現に向けて、(公社)沖縄県糖業振興協会、分蜜糖製造事業者、関係団体等と連携し、当初計画の調整・精査、執行状況の定期的な把握等、引き続き、事業執行体制の強化に努める必要がある。</li> <li>・分蜜糖製造事業者は、製糖操業終了後の5月～11月の間に設備のメンテナンスや整備等を完了し、次期製糖期に備える必要があり、設備整備の可能な期間が限られていることから、製造合理化対策については、引き続き、事業の早期着手に取り組む必要がある。</li> </ul>

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>・気象災害等影響緩和対策、離島条件格差は正補填対策については、(公社)沖縄県糖業振興協会と支援額に関する協議を早期に行い、分蜜糖製造事業者の経営安定に資するよう、早期執行に努める。</li> <li>・製造合理化対策については、(公社)沖縄県糖業振興協会、分蜜糖製造事業者、関係団体等と連携し、早期の事業着手が可能となるよう、当初計画の十分な調整・精査を行うとともに、定期的に進捗状況の確認を行い、事業完了に遅れが生じないように努める。また、年度内完了が難しい設備整備については、分離発注等効率的な事業執行に向けた検討を行い、実施設計等の調整・協議に時間を要する設備整備については、十分な事前調整を行う。</li> </ul>

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



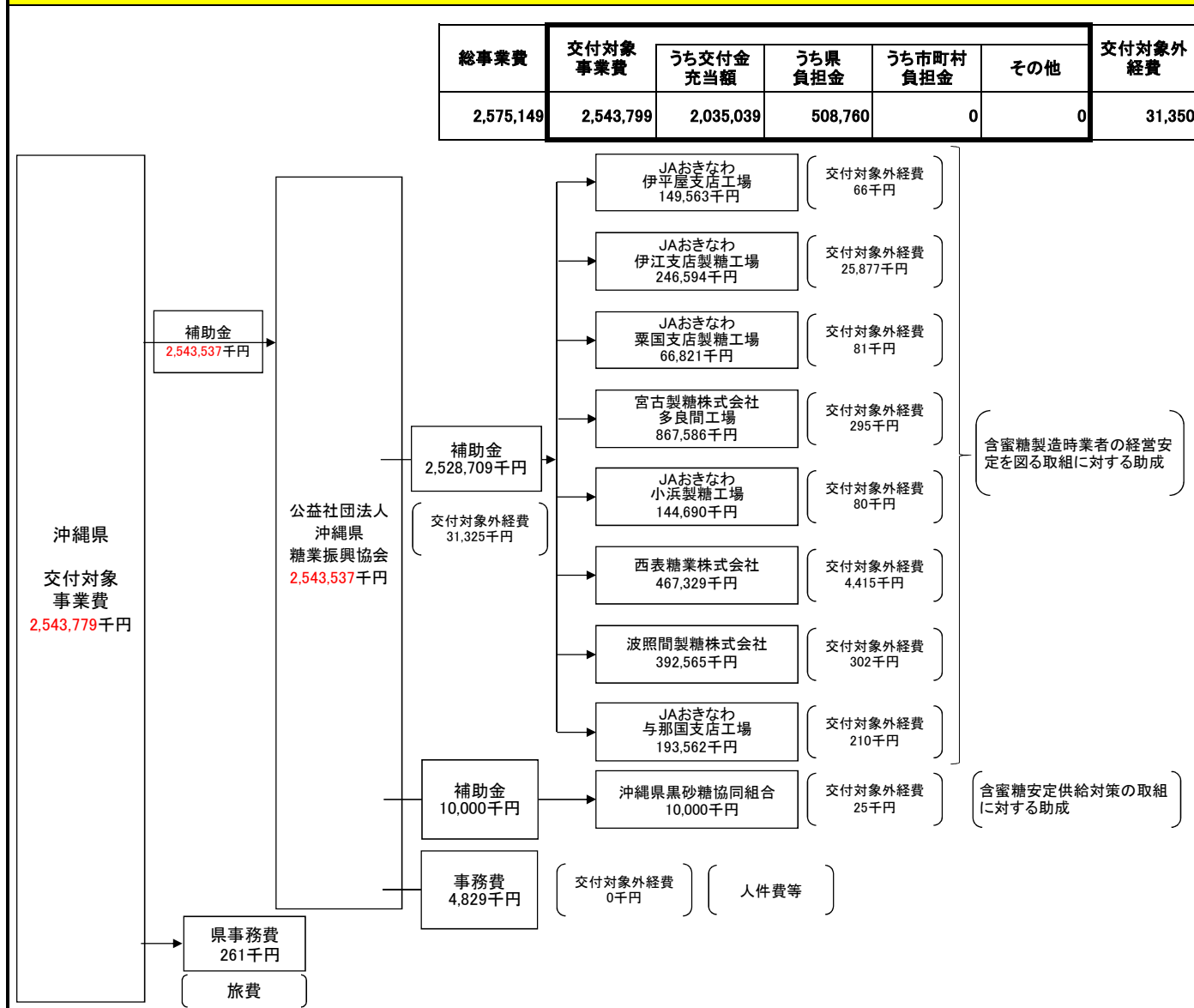
資金の流れ、費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流れ、費目・評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○(公社)沖縄県糖業振興協会は、さとうきび及び糖業に関する専門的知識を有する組織であり、本事業の事業実施主体として妥当であったと考えている。 ○受益者である分蜜糖製造事業者は総事業費の4割を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号 ・事業名	75	含蜜糖振興対策事業費	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第4章-3-(7)-ウ-⑤ 製糖業の経営基盤強化と高度化推進			
担当部署名	農林水産部糖業農産課	事業実施 (予定)年度	H24 ~ R13 年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(6) Ⅲ-9		
事業内容	さとうきび生産農家の収入を確保するため、含蜜糖製造事業者に対し、含蜜糖製造コストの不利補正、製糖設備整備、安定供給等に対する支援を行う。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )							
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度		
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	1,362,795		1,505,055		1,667,456	
		(b)予算現額	1,446,176		2,180,109		2,544,079	
		(c)増減額(b-a)	83,381		675,054		876,623	
		(d)前年度繰越額	0					
		A. 計(b+d)	1,446,176		2,180,109		2,544,079	
	B. 執行済額		1,445,108		2,175,648		2,543,799	
	うち交付金充当額		1,156,086		1,740,518		2,035,039	
	C. 次年度繰越額				0		0	
	執行率(%) (B/A)		99.9%		99.8%		100.0%	
予算の状況の説明		・執行率は100.0%であり、計画的に執行できた。						
活動目標 (指 標) 及び 進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	①製造コスト不利補正の対策	目標	8工場	8工場	8工場	8工場		
		実績	8工場	8工場	8工場	8工場		
	②気象災害等影響緩和対策	目標	8工場	8工場	8工場	8工場		
		実績	8工場	8工場	8工場	8工場		
	③製造合理化対策	目標	2工場	2工場	4工場	2工場		
		実績	2工場	2工場	4工場	2工場		
	④安定供給対策	目標	8工場	8工場	8工場	8工場		
		実績	8工場	8工場	8工場	8工場		
進 捗 状 況 説 明	・県内含蜜糖製造事業者8工場に対して、生産条件不利補正対策、気象災害等影響緩和対策、製造合理化対策等の取組に対する支援を行った。 ・製造合理化対策は、2工場で実施し、工場の安定操業に寄与している。 ・含蜜糖安定供給対策では、含蜜糖製造に関する課題解決、品質検査指導、研修等を行い、製糖技術者の育成を図る取組を実施した。 ・事業の早期執行を継続して実施し、生産条件不利補正対策、気象災害等影響緩和対策等の支援を行った結果、含蜜糖製造事業者の経営安定に寄与している。							
成果目標 (指 標) 及び 達成状況	R4成果目標(指標)		基準値 (H29年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (R5年度)	
	全量買い入れを行った含蜜糖製糖工場		目標	-	8工場	8工場	8工場	8工場
			実績	-	8工場	8工場	8工場	-
	達 成 状 況 説 明	・全量買い入れを行った含蜜糖製糖工場は、実績が8工場となり、目標を達成することができた。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	①含蜜糖製造事業者は、製糖終了後の4月～11月頃の間次期製糖期に向けた設備整備等を行っていることから、事業着手時期が遅れると含蜜糖製造事業者の資金繰り悪化や設備整備の遅れによる次期製糖開始の遅れにつながり、さとうきび生産者や製糖事業者の経営圧迫が懸念される。 小規模離島で行われている含蜜糖の生産は、地域の農業・経済を支える重要な産業となっている。一方、含蜜糖の生産は、地理的、自然的条件等が不利なことから、安定生産に課題を抱えており、支援体制の継続が必要である。	①計画的な事業執行及び事業効果の早期発現に向け、継続的に関係団体との連携に取り組み、事業執行体制の強化を図る必要がある。 工場の安定操業により、含蜜糖地域の生産農家が安心してさとうきびを生産できる状況を確認していく必要がある。  ②今後も成果目標達成のため、さとうきびの増産に対応できるよう、含蜜糖製造事業者の経営安定、黒糖の品質向上に向けた継続した取り組みが必要である。
	②成果目標である全量買い入れを行った含蜜糖製糖工場について、R4年度は目標が達成された。今後もさとうきびの増産に対応できるよう、含蜜糖製造事業者の経営安定、黒糖の品質向上に向けた継続した取り組みが必要である。	
今後の取り組み方針		
①含蜜糖地域のさとうきび農家と含蜜糖製造事業者は、車の両輪のような関係にあり、これにより、地域経済・社会の維持が図られている。工場の適正操業が行われることにより、さとうきびの適期収穫や適期栽培管理が行えるという観点から、含蜜糖製造事業者が抱える喫緊の課題に対して必要な取り組みを継続し、総合的な成果目標である含蜜糖製造事業者の経営安定の達成を図る。		
②成果目標達成に向けて、JA、生産組合、製糖事業者等との連携を強化し、さとうきび増産及び品質向上に向けた取り組みを行う。		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 用・使 途の 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○(公社)沖縄県糖業振興協会は、さとうきび及び糖業に関する専門的知識を有する組織として、本事業の事業実施主体として適正である。 ○費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費用・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
○			

## 令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号 ・事業名	76	沖縄黒糖販路拡大推進事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(7)-ウ-⑤			
担当部署名	農林水産部糖業農産課	事業実施 (予定)年度	R2 ~ R6 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	製糖業の経営基盤強化と高度 化推進		
事業内容	業界団体及び黒糖製造事業者において黒糖の販路拡大の支援が必要なことから、新たな需要開拓に取り組む。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	34,624		35,092		25,330
		(b)予算現額	34,624		35,092		25,330
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d)前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	34,624	0	35,092	0	25,330
	B. 執行済額		11,770		18,400		16,659
	うち交付金充当額		9,416		14,720		13,327
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率(%) (B/A)		34.0%	#DIV/0!	52.4%	#DIV/0!	65.8%
予算の状況の説明		沖縄黒糖の需要拡大や消費拡大を図るため、商談会の開催に要する経費として委託料、商品開発の補助支援として補助金を計上した。 執行率は65.8%であり、主に補助金の執行残が発生したことによるものである。					
活動目標 (指 標) 及び 進捗状況	R3活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	県外における商談会の開催	目標		2回	2回	2回	
		実績		2回	1回	2回	
	県内における商談会の開催	目標		1回	1回	1回	
		実績		1回	1回	1回	
	観光や展示会等におけるPR活動の実施	目標		実施	実施	-	
実績			実施した	実施した	-		
進捗状況説明	沖縄県黒砂糖協同組合および含蜜糖製糖事業者、委託事業者にて県内外における商談会や、観光客向けのPR資材の開発、キャンペーンの実施を実施した。商談会では40社との商談を実施し、商談成約に向け取組は継続中である。また、観光客向けのPR資材を開発し、同組合のSNSにより情報発信を実施しつつ、HPIにて業務用の需要喚起に努めた。						
成果目標 (指 標) 及び 達成状況	R4成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (R5年度)
	沖縄黒糖を使用した商品の生産・販売を行う企業数	目標		-	4社	4社	4社
		実績			-	5社	8社
	達成状況説明	成果目標である沖縄黒糖を使用した商品の生産・販売を行う企業数は8社であり、目標は達成できた。					

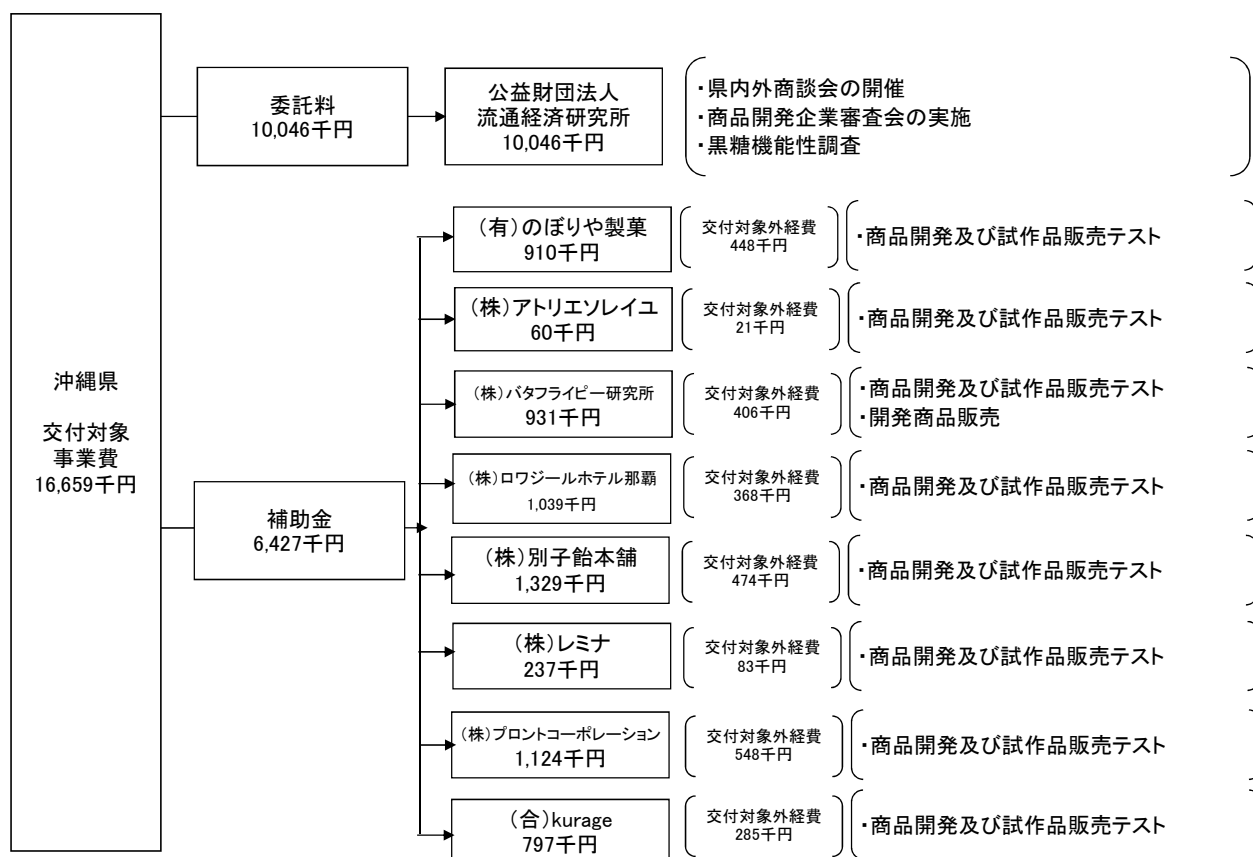
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>当面、新型コロナウイルス禍の影響がある中で、既存需要および新規需要の掘り起こしが必要である。</p> <p>また、商談会については、新型コロナウイルス感染症の影響により県外商談会についてはオンラインによる開催、県内商談会については対面およびオンラインの併用にて開催した。当面は新型コロナウイルス禍の影響により対面のみでの開催は困難とより商談後の成約に結びつく精度の高い商談会とするためには、開催方法の工夫と精査、ノウハウの構築が必要である。</p>	<p>当面は新型コロナウイルス禍の影響により対面のみでの開催は困難とより商談後の成約に結びつく精度の高い商談会とするためには、開催方法の工夫と精査、ノウハウの構築を図る。</p> <p>また、新規需要の開拓のため商品開発にかかる情報発信の強化を図る。</p>

**今後の取り組み方針**

引き続き、商談会の開催による新たなユーザーを獲得や、商品開発の補助支援に取り組みつつ、観光や展示会等におけるPR活動の実施、省力化や加工技術の向上など黒糖販売付加価値向上対策、安定供給対策の方策策定に取り組む。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
19,292	16,659	13,327	3,332	0	0	2,633



資金の流し、点検、費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○予算規模は、委託業務量を勘案した予算規模となっており、適正である。</p> <p>○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	57	AIを活用した作物障害画像診断に向けた体制整備事業	新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(7)-オ-③			
担当部署名	農林水産部農林水産総務課	事業実施(予定)年度	R4 ~ R8 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地域特性を最大限に活かした農林水産技術の開発と普及		
事業内容	安定品目及び戦略品目の5品目において、作物障害の画像データを集積し、画像診断システムに向けた体制を整備するため、人為的な病害虫及び栄養障害作物作出し、画像データを集積する。現場での画像データも同時に集積する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和13年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	-	-	-	-	77,700
		(b)予算現額	-	-	-	-	77,700
		(c)増減額(b-a)	-	-	-	-	0
		(d)前年度繰越額	-	-	-	-	0
		A. 計(b+d)	-	-	-	-	77,700
	B. 執行済額	うち交付金充当額	-	-	-	-	53,890
		C. 次年度繰越額	-	-	-	-	0
		執行率(%) (B/A)	-	-	-	-	86.9%
	予算の状況の説明	・執行率は86.9%で、委託料の入札残及び旅費の執行残によるものである。					
活動目標(指標)及び進捗状況	R4活動目標(指標)	進捗状況					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	統合データベースに用いる画像データ集積のための障害作物の作出	目標				作出する	
		実績				作出した	
進捗状況説明	計画通りである。						
成果目標(指標)及び達成状況	R4成果目標(指標)		基準値(〇〇年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(R13年度)
	統合データベースに用いる画像データ数	目標				10,000枚	-
		実績					12,116枚
	【R13成果目標】 診断システム利用者の農薬の散布回数	目標					1割減
	【R8成果目標】 病害虫診断正答率	目標					80%
達成状況説明	人為的に障害を起こした作物及生産やほ場における障害作物の画像を撮影後、アノテーション(AIが学習する箇所をマーキングすること)を行うことにより、統合データベースに用いる教師画像データを12,116枚作成し、目標を達成した。						

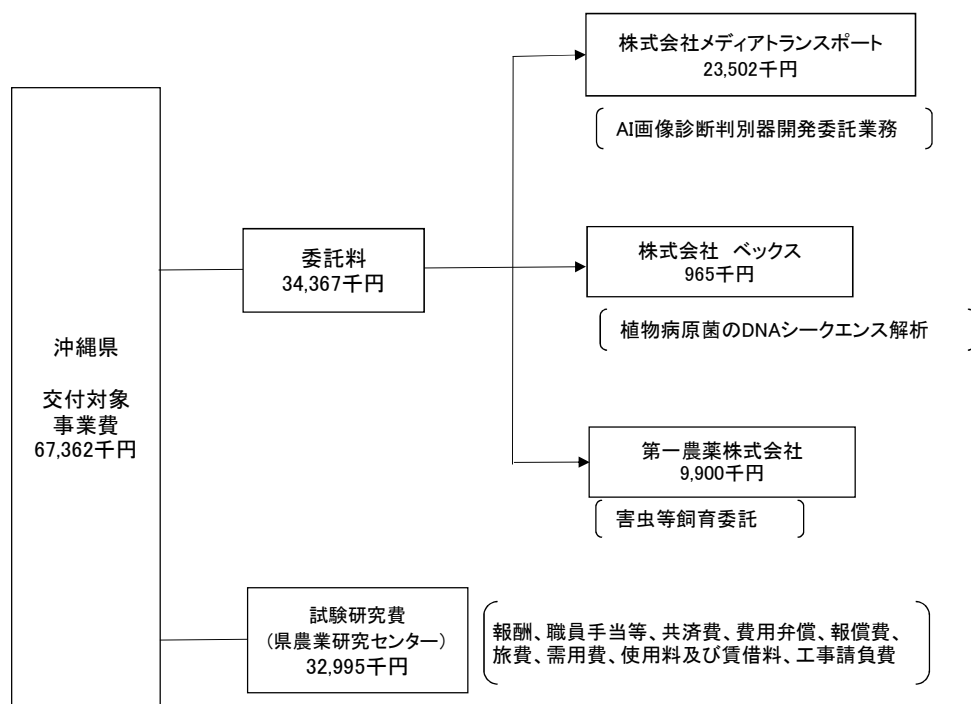
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	①障害が不定形(形が不規則)な症状については、当初障害当たり1,000枚を想定していたが、2,000枚程度必要であることがわかった。 ②障害の教師画像データのみでなく、利用者が障害と見間違えそうな健全植物の症状についても収集が必要である。	①不定形な障害については、アノテーション作業も含め教師画像データの目標を上方修正し、収集を急ぐ必要がある。 ②現地ほ場でのデータ収集を強化し、現場で見られる類似症状の教師画像データを取得する必要がある。

**今後の取り組み方針**

- ①不定形な障害について、人為的に作出する障害作物によるデータ収集を急ぐとともに、アノテーション作業体制を構築する。
- ②各地域の農業改良普及センター(課)や製糖工場、JAおきなわの担当員との連携を図り、現場でのデータ取得枚数を増やす。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額				交付対象外経費
		うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	
67,540	67,362	53,890	13,472	0	0	178



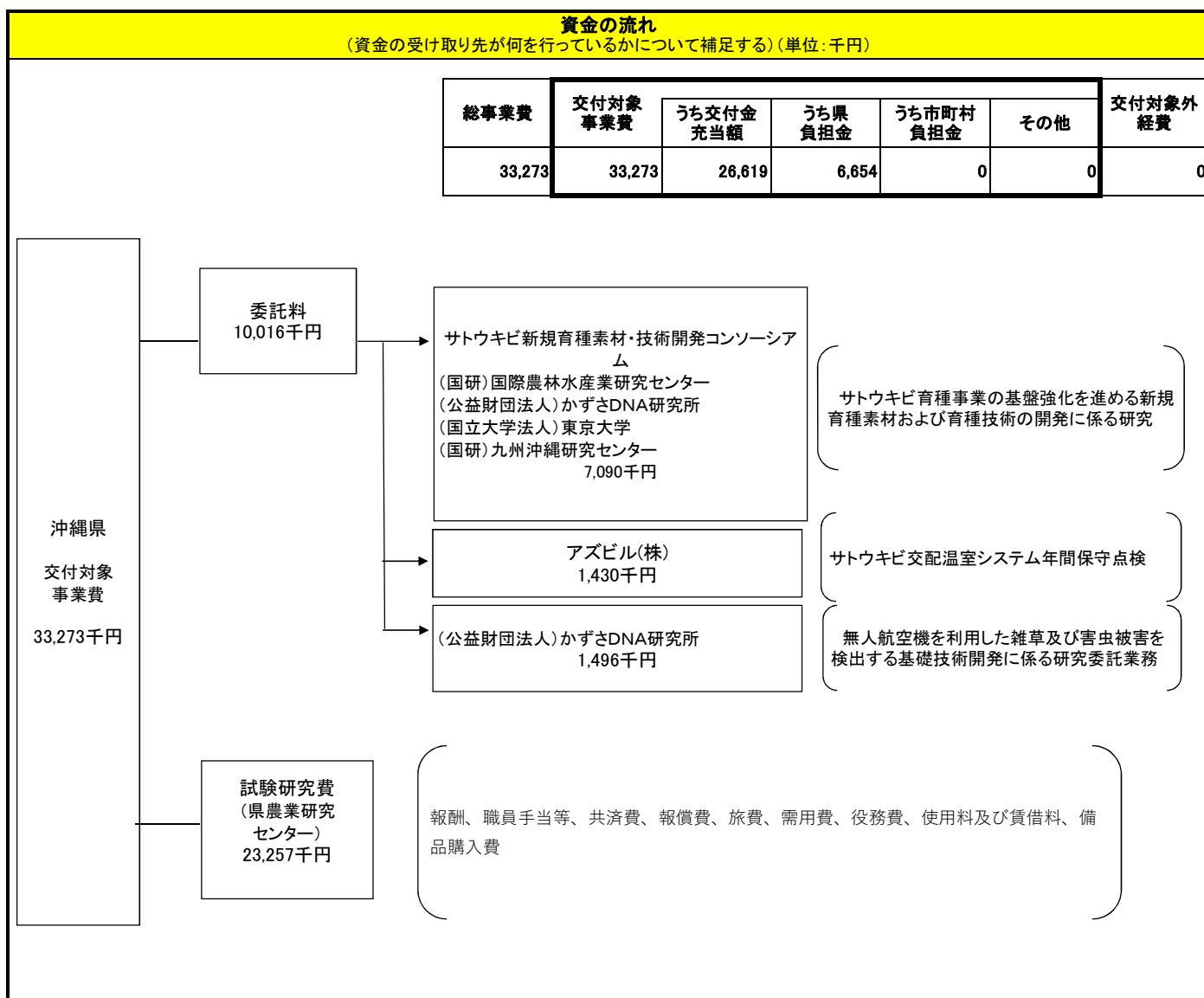
資金の 使途の 流れ、 費目 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、一般競争入札、企画提案プロポーザルなど事業の内容によって選定したため、妥当であったと考える。 ○費目・使途については、事業報告書等を検査し、適正である事を確認した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

<b>事業番号・事業名</b>	58	地域を支えるサトウキビ大規模栽培体系構築事業	<b>新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所</b>	第4章-3-(7)-オ-③			
<b>担当部課名</b>	農林水産部農林水産総務課	<b>事業実施(予定)年度</b>	H30 ~ R8 年度	<b>沖縄振興基本方針 該当箇所</b>			
<b>事業内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模栽培作業に対応可能な省力的栽培体系構築のため、収量への影響が少ない省力技術の探索を行う。</li> <li>・大規模栽培を支えるスマート農業技術導入のため、農業機械の自動操舵およびドローンによる各種作業の検証を行う。</li> <li>・干ばつ耐性が期待できる新規サトウキビ品種の開発のため、交配後代集団の特性調査を行う。</li> </ul>						
<b>効果発現年度</b>	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和13年度)						
<b>実施方法</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	50,339		47,824		37,052
		(b)予算現額	50,339		47,824		37,052
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d)前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	50,339	0	47,824	0	37,052
	B. 執行済額		47,843		44,241		33,273
	うち交付金充当額		38,274		35,393		26,618
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率(%) (B/A)		95.0%	#DIV/0!	92.5%	#DIV/0!	89.8%
予算の状況の説明		・執行率は89.8%であった。会計年度任用職員の募集に際して応募が少なかったため、主に報酬等の人件費に執行残が発生した。					
<b>活動目標(指標)及び進捗状況</b>	R4活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	①株出し栽培での管理作業における収量性への評価(3工程)	目標				収量への影響が少ない省力技術の探索(3工程)	
		実績				収量への影響が少ない省力技術探索実施(3工程)	
	②農業機械の自動操舵、ドローンの作業性および効果試験(3作型)	目標				自動操舵およびドローンによる各種作業の検証(3作型)	
		実績				自動操舵およびドローンによる各種作業探索実施(2作型)	
	③種属間交雑後代の生育特性評価試験(8系統)	目標				交配後代集団の特性調査(8系統)	
		実績				交配後代集団の特性調査の実施(12系統)	
	進捗状況説明	①収量への影響を確認するため、1.植付け、2.株揃え、3.根切り排土作業の省略および、発芽促進について実施した。 ②ドローンにおける1.春植え、2.株出しほ場での画像取得法開発とと解析を行うとともに、ドローンによるセンシング等の委託事業を開始した。 ③育種に関する委託事業を開始し、新規特性の評価やゲノム情報の整備を行った。また、3次選抜10系統、4次選抜2系統の評価を実施した。					
	<b>成果目標(指標)及び達成状況</b>	R4成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R2年度	R3年度	R4年度
収量への影響が少ない省力技術の探索		目標				省力技術の探索の検討	
		実績				省力技術の探索を実施した	
農業機械の自動操舵およびドローンによる各種作業の検証		目標				各種作業の検証	
		実績				各種作業の検証を実施した	
新規育種素材を活用した交配後代集団の特性調査		目標				交配後代集団の特性調査	
		実績				交配後代集団の特性調査を実施した	
【R13成果目標】 管理作業の省力化・時間削減が可能な栽培体系の普及により、一農家あたり収穫面積向上		目標				10%	
【R13成果目標】 マーカー育種技術を利用して育成した台風や干ばつに強く収量が安定する品種導入		目標				1品種	
達成状況説明		①サトウキビ省力栽培については、各作業の省略や発芽促進について調査し、目標を達成した。 ②スマート農業機器の導入、ドローンほ場の害虫センシングを委託事業の開始とデータの蓄積を実施し、目標を達成した。 ③育種関係の委託事業開始し、耐病性や根の改良系統の評価やゲノム情報の整備を行った。また、根が強く農業特性にも優れた新品種開発に向けた有望系統を選抜し、目標を達成した。					



推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
<b>取組の検証</b> ①機械化一貫管理作業が収量に与える影響の調査や、スマート技術を組み込んだ体系について、主作型である株出しにおける検討を十分に行うためには、調査面積を拡大する必要がある。 ②害虫や雑草のスマートモニタリング方法を確立するには、大量の画像処理等が必要となる。 ③機械化一貫体系に対応した育種のため、新系統を選抜する必要があり、ゲノム情報の整備を進めるため、遺伝子解析等のボリュームを確保する必要がある。	①栽培体系については、株出し試験の結果を導くための調査面積を検討し、予算の確保に努める。 ②画像解析に必要な条件等を整備して実施する。 ③解析できる領域については、効率や優先度を確認して実施する。
今後の取り組み方針	
①機械化一貫作業が収量に与える影響の調査や、スマート技術を組み込んだ体系の検証について、主作型である株出しで実施する。 ②害虫や雑草のスマートモニタリング方法を確立するため、画像処理等を進める。 ③遺伝子解析等のボリュームに留意しつつ、選抜技術の確立と有望系統の確立を進める。	



資金の流れ、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
○		支出先の選定方法は妥当か。	○研究に関する委託を行っており委託事業者は、企画提案プロポーザルなど事業の内容によって選定した。特殊施設は特命随契となっているが、妥当であったと考える。
○		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
-		受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、事業報告書等を検査し、適正である事を確認した。
○		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号 ・事業名	59	持続可能な沖縄型果樹生産技術開発事業		新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(7)-オ-③		
担当部署名	農林水産部農林水産総務課 (農業研究センター)	事業実施 (予定)年度	H25 ~ R8 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	地域特性を最大限に活かした農林水産技術の開発と普及 Ⅲ-1-(6)		
事業内容	AI画像生育診断技術開発に向けた、デジタル技術によって識別が可能な要素である可視化データの蓄積を行う。可視化データを活用した感覚的に理解しやすい栽培マニュアル作成のため、情報収集する生産者の選定および環境・樹体情報を集める。鮮度保持、1次加工製造技術、安定供給技術の開発にむけた基礎特性の把握を行う。新規品目による栽培技術開発に向け、新規品目の評価を行う。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和13年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	47,433		45,066		38,815
		(b)予算現額	47,433		45,066		38,815
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d)前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	47,433	0	45,066	0	38,815
	B. 執行済額		45,324		41,806		30,443
	うち交付金充当額		36,259		33,445		24,355
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0
	執行率(%) (B/A)		95.6%	#DIV/0!	92.8%	#DIV/0!	78.4%
予算の状況の説明		・執行率は78.4%であり、主に委託費の執行残が発生したことによる。また、会計年度任用職員の応募が少なく、採用報酬等の人件費に執行残が発生した。加えて、新型コロナウイルス感染症の発生による旅費の執行残が発生した。					
活動目標 (指 標) 進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	①デジタル技術によって識別が可能な要素の抽出(パインアップル)	目標				要素の抽出	
		実績				要素の抽出のための検討を行った	
	②栽培管理作業の可視化を進める。	目標				可視化のためのデータ収集	
		実績				可視化のためのデータ収集を行った	
	③1次加工特性・鮮度保持・機能性試験の実施(アセロラ・パイン)	目標				各種試験の実施	
		実績				各種試験を実施した	
	④安定生産技術開発に向けた栽培試験の実施	目標				栽培試験の実施	
		実績				栽培試験を行った	
進捗状況説明	①マンゴー、パインアップルの2品目を対象に、先端技術の活用を目指した新たな果樹栽培技術の開発を目指し、単年度成績書を取りまとめ、推進会議で検討した。 ②カンキツ類、アセロラ、パッションフルーツ、マンゴーを対象に、単年度成績書を取りまとめ、推進会議で検討した。 ③ピタヤ、パインアップル、アセロラに関して鮮度保持条件の確立および加工特性評価を実施し、単年度成績書を取りまとめ、推進会議で検討した。 ④中晩性カンキツ、インドナツメを対象に、安定生産技術開発に向けた栽培試験を実施した。						

R4成果目標(指標)	基準値 (〇〇年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (令和13年度)
栽培ステージ毎の可視化データの蓄積(1品目: 画像データ100枚)	目標				1品目:100枚
	実績				1品目: 2,500枚を検証し た
情報収集する生産者の選定および環境・樹体 データの収集(1品目:4生産者以上)	目標				1品目:4生産者 以上
	実績				1品目:5生産者 のデータを収集 した
鮮度保持・1次加工品製造技術の開発にむけた 基礎特性の把握(2品目)	目標				2品目
	実績				3品目の基礎特 性把握のための 試験を行った。
新規品目評価(1品目以上)	目標				1品目以上
	実績				2品目の評価の ための試験を 行った。
【R13成果目標】 先端技術を活用した画像等による栽培管理支援 技術の実用化	目標				2品目
【R13成果目標】 マンゴーにおいて収量を安定して得られる栽培体 系の確立	目標				平均反収 0.9t/ha
【R13成果目標】 生果および1次加工品供給期間の延長	目標				生果:1.5倍 加工品:周年
【R13成果目標】 新規品目の導入による収穫期拡大による冬期取 扱量の増大	目標				冬期取扱量 10%増
達成 状況 説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バインアップルの研究課題においては、生育時期の判別に向け、2,500枚の画像を解析し検証した。目標は達成した。</li> <li>・栽培管理技術の可視化を進めるため優良生産者圃場5カ所で開催した。目標は達成した。</li> <li>・気候変動環境下での安定供給に向け、2品目で鮮度保持条件及び、1次加工品試作を実施した。目標は達成した。</li> <li>・新規品目の導入による収穫期拡大のため、2品目で試験栽培を行った。目標は達成した。</li> </ul>				

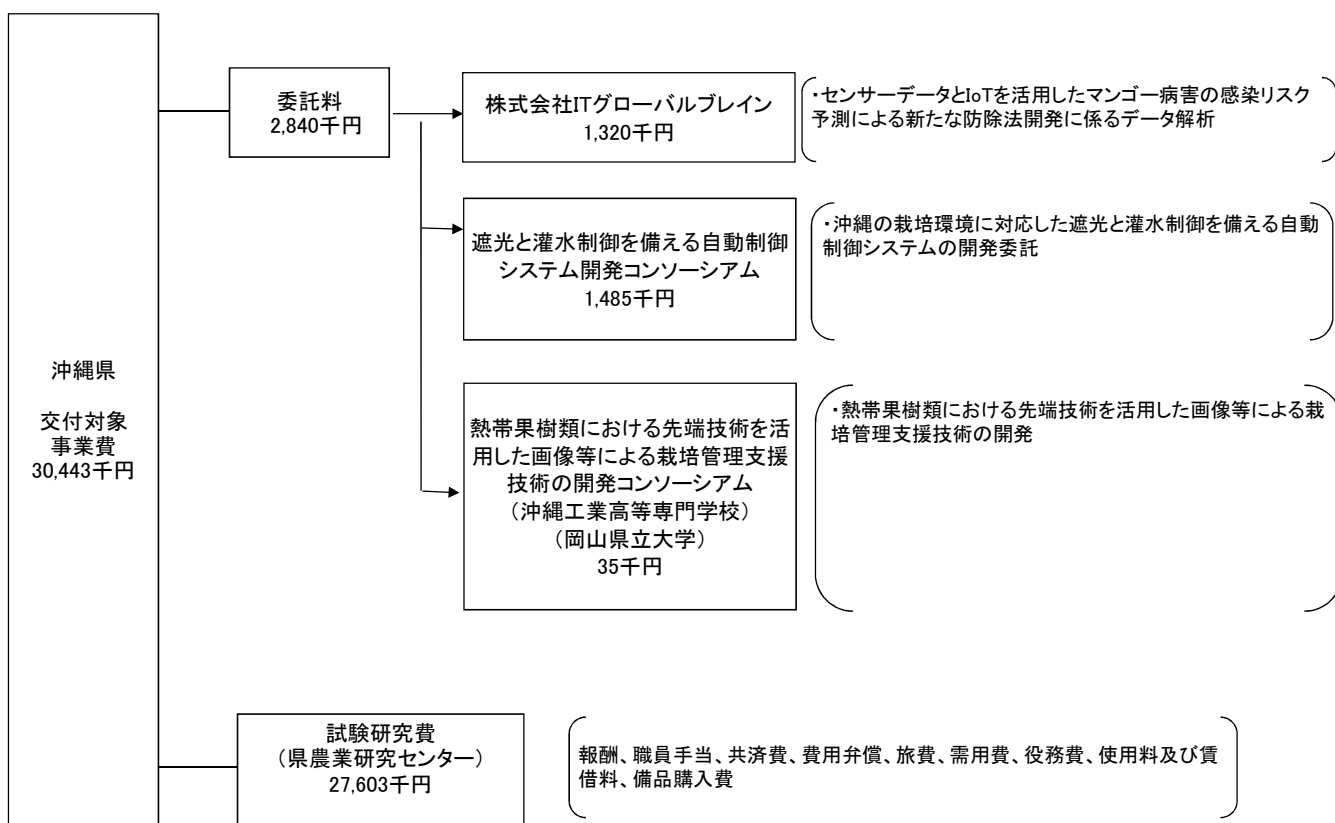
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究委託課題において、計画通りの予算執行が実施できなかった。しかし、試験実施体制を検討し、成果を得ることができた。</li> <li>生産分野における県内有識者を外部アドバイザーとして推進会議を実施したが、新型コロナウイルス感染症の発生により、県外在住の専門家を招いて検討が実施できなかった。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の発生により、研究成果発表会などが実施できなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度以上に委託先と連携を密にし、研究課題及び実施体制、予算執行の進捗管理を行う。</li> <li>技術の利用者や実需者目線の評価に加え、研究内容や結果について果樹研究の専門家から推進会議などで単年度ごとに評価を得る。</li> <li>普及に移す技術などの今まで得られた研究成果については、JAの指導員や各地の果樹担当普及員への情報共有を図り、生産現場への定着を図る。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

- 予算執行率が低かった委託課題については、委託先との目標および実施体制について、綿密に調整したうえで、進捗状況確認のための調整会議を年間4回以上実施する。
- 研究結果を検討する推進会議には、果樹研究の専門家を招聘し、結果および計画についてアドバイスを受け、次年度計画などに反映する。
- 大規模な成果発表会が開催できない場合は、果樹ワーキング会議や普及員課題解決研修など既存の会議を活用し、研究成果の共有を図る。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先				交付対象外経費
		うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	
30,443	30,443	24,355	6,088	0	0	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○委託先の選定については、特殊性の高い業務であり、公募型プロポーザル方式による審査や入札を経て適正に実施した。</li> <li>○費目・用途については、事業目的達成の観点から必要性・規模を判断するとともに、額の確定時は支出書類により確認したところ適正であった。</li> </ul>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号 ・事業名	60	労働力不足と環境負荷軽減に対応する沖縄型園芸農業技術開発事業		新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(7)-オ-③		
担当部署名	農林水産部農林水産総務課	事業実施 (予定)年度	H 30 ~ R8 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	地域特性を最大限に活かした農林水産技術の開発と普及 Ⅲ-1-(6)		
事業内容	①病害虫に強く作業性に優れた野菜の品種の検討を行う。 ②野菜類の省力化栽培技術を開発するため、ヘチマ省力性系統の露地栽培について検討する。 ③病害虫に強く作業性に優れた花きの品種の検討を行う。 ④省力的防除試験(LED照射等)の実施、環境負荷を軽減する施肥条件を検討する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R13年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	42,550	—	40,427	—	32,045
		(b)予算現額	42,550	—	40,427	—	32,045
		(c)増減額(b-a)	0	—	0	—	0
		(d)前年度繰越額	0	—	0	—	0
		A. 計(b+d)	42,550	—	40,427	—	32,045
	B. 執行済額		40,388	—	37,325	—	24,795
	うち交付金充当額		32,310	—	29,860	—	19,835
	C. 次年度繰越額		0	—	0	—	0
	執行率(%) (B/A)		94.9%	—	92.3%	—	77.4%
予算の状況の説明		・執行率は77.4%であり、主に報酬、職員手当等、共済費、費用弁償の執行残が発生した。これは、会計年度任用職員の募集を行ったが、必要人数の応募がなかったことによるものである。					
活動目標 (指 標) 及び 進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	①育種材料の検討 (ゴーヤー8系統)	目標				8系統	
		実績				8系統	
	②野菜類(ヘチマ等)における省力的栽培技術に関する試験を1件実施する。	目標				1件	
		実績				1件	
	③育種候補の選抜(赤輪ギク2系統、黄輪ギク10系統)	目標				赤輪ギク2系統 黄輪ギク10系統	
		実績				赤輪ギク4系統 黄輪ギク13系統	
	④花きにおける省力的栽培技術、環境負荷軽減技術に関する試験を各1件実施する。	目標				省力化試験1件 環境負荷軽減試験1件	
		実績				省力化試験1件 環境負荷軽減試験1件	
進捗状況説明	①育種素材の検討は、目標どおりの8系統を用いて選抜試験を実施した。 ②野菜類(ヘチマ等)における省力栽培技術に関する試験については、目標どおりの1件の試験を実施した。 ③育種候補の選抜については、目標どおり赤輪ギク4系統、黄輪ギク13系統を用いて選抜試験を実施した。 ④花きにおける省力的栽培技術、環境負荷軽減技術に関する試験については、目標どおり省力化試験1件及び環境負荷軽減試験1件の試験を実施した。						

R4成果目標(指標)		基準値 (H30年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (R13年度)
①ゴーヤーを4系統以上選抜する。	目標				4系統以上	
	実績				5系統	
【R13成果目標】 開発された品種及び栽培技術の導入により、栽培に係る作業時間10%及び農薬や化学肥料の使用量10%を低減する	目標	農薬散布時間 40h/10a				農薬散布時間 36h/10a
②野菜類における省力的栽培技術についての試験成績を1件報告する。	目標				試験報告書1件	
	実績				1件	
【R13成果目標】 開発された品種及び栽培技術の導入により、栽培に係る作業時間10%及び農薬や化学肥料の使用量10%を低減する	目標	農薬散布時間 35.5h/10a				農薬散布時間 32h/10a
③赤輪ギクを1系統以上選抜する。 ・黄輪ギクを1系統以上選抜する。	目標				各1系統以上	
	実績				赤1,黄3系統	
【R13成果目標】 開発された品種及び栽培技術の導入により、栽培に係る作業時間10%及び農薬や化学肥料の使用量10%を低減する	目標	農薬散布時間 27.2h/10a				農薬散布時間 24.5h/10a
④花きにおける省力的栽培技術、または環境負荷軽減技術に関する試験成績を1件報告する。	目標				試験報告書1件	
	実績				2件	
【R13成果目標】 開発された品種及び栽培技術の導入により、栽培に係る作業時間10%及び農薬や化学肥料の使用量10%を低減する	目標	農薬散布時間 33.3h/10a				農薬散布時間 30h/10a
達成状況説明	<p>①うどんこ病抵抗性ゴーヤーF1新品種育成のための有望系統を5系統選抜し、目標を達成した。          ②サヤインゲンの天敵昆虫を用いた害虫防除試験を行い試験成績書を1件作成し目標を達成した。          ③赤輪ギクの生産力検定試験により1系統、黄輪ギクの3次選抜試験により3系統を選抜し、目標を達成した。          ④トルコギキョウ栽培における施設環境制御の自動化試験及びキクの省力的防除機のプロトタイプ制作を行い試験成績書を2件作成し目標を達成した。</p>					

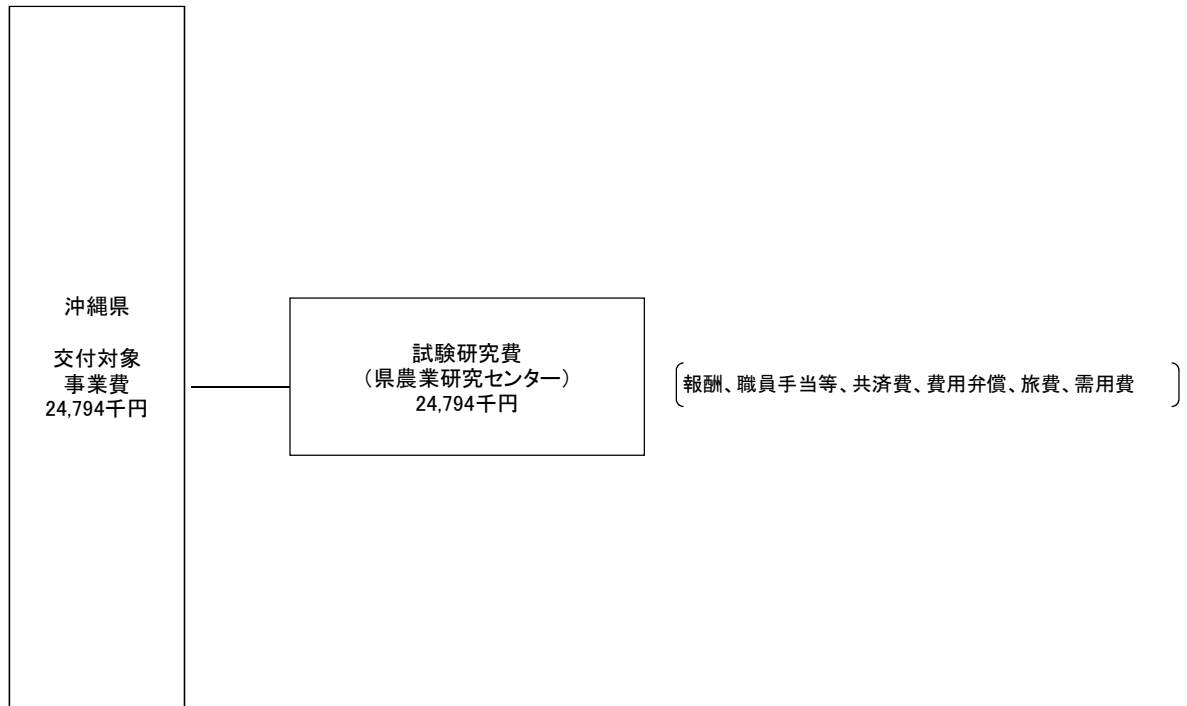
R4-No.60

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>①3月頃にアザミウマが少発生したが、多発すると試験結果に影響を及ぼす可能性がある。          ②試験中盤で、防除対象外の病害虫が多発生し、天敵による防除効果が低下した可能性がある。          ③5～6月の記録的な多雨により親株養成が不安定になり、その後の本圃での栽培に影響があった。          ④栽培初期にアザミウマ類の発生が多く、初期生育に影響があった可能性があり、栽培後半に立ち枯れ病の発生がありサンプル数に影響があった。</p> <p>(共通)          ・5月以降の募集の応募が少なく必要な雇用数が確保できなかった。          ・コロナのため先進地調査や専門講師の招聘ができず、試験方法や結果についての検討や意見交換が十分にできなかった。</p>	<p>①病害虫の発生を防ぐには、計画的な農薬散布が必要である。          ②天敵による防除効果を安定化させるために、防除対象外の病害虫の発生を抑える必要がある。          ③気象等の変動に影響を受けないように、安定した栽培の環境を整える。          ④病害虫による試験結果への影響を排除するために、植え付け前の病害防除や予防的な薬剤散布を行う必要がある。</p> <p>(共通)          応募が多い年度当初から雇用できるようにする。          直接会わなくても、情報が得られる環境をつくる。</p>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<p>①あらかじめ農薬散布のスケジュールを組むことで、病害虫発生の予防に努める。          ②天敵による防除対象外の害虫が増えないように予防的なスケジュール防除を徹底する。          ③長期予報の確認の上、雨よけや排水対策等を行った圃場で試験を行う。          ④土壌消毒を徹底し、植え付け初期はアザミウマ類に対する予防的なスケジュール防除を徹底する。</p> <p>(共通)          ・3月から雇用募集を行い、年度当初から雇用する。          ・webミーティング環境の整備を行う。</p>		

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象 事業費	交付対象事業費の内訳				交付対象外 経費
		うち交付金 充当額	うち県 負担金	うち市町村 負担金	その他	
24,794	24,794	19,835	4,959	0	0	0



資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○費目・使途については、事業報告書等进行检查し、適正である事を確認した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号 ・事業名	61	沖縄アグー豚ゲノム育種推進事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第4章-3-(7)-オ-③		
担当部署名	農林水産部農林水産総務課	事業実施 (予定)年度	H25 ~ R7 年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	地域特性を最大限に生かした 農林水産技術の開発と普及	
事業内容	遺伝的多様性を維持した沖縄アグー豚の恒常的な生産体制の構築を目的に、肉質と併せて繁殖能力の遺伝的能力評価方法を開発するため、繁殖能力の改良目標となる形質の調査を行う。						
効果発現年度	■当年度      ■後年度(R7年度)						
実施方法	■直接実施    ■委託      □補助      □負担      □その他( )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算 の 状況	(a)当初予算額	10,357		10,648		8,619
		(b)予算現額	10,357		10,648		8,619
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d)前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	10,357	0	10,648	0	8,619
	B. 執行済額		9,852		10,026		7,973
	うち交付金充当額		7,882		8,021		6,379
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率(%) (B/A)		95.1%	#DIV/0!	94.2%	#DIV/0!	92.5%
予算の状況の説明		・執行率は92.5%であり、主に役務費の入札に係る執行残が発生したことによるものである。					
活動目標 (指 標) 及び 進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	肉質改良の検証:2農場4頭	目標				2農場4頭	
		実績				2農場4頭検証した	
	繁殖性の選抜基準となる形質の調査	目標				調査の実施	
		実績				調査を実施した	
	形質情報の収集:192頭	目標				192頭	
実績					192頭収集した		
進捗状況説明	・2農場4頭の雄豚の肉質改良を検証した。 ・繁殖性の選抜基準となる形質の調査を4農場を対象に実施した。 ・繁殖性の形質情報について、192頭のデータを収集した。						
成果目標 (指 標) 及び 達成状況	R4成果目標(指標)		基準値 (H30年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (R12年度)
	肉質改良検証による選抜雄種豚能力の評価	目標				評価の実施	
		実績				実施した	
	繁殖性の改良目標の設定	目標				改良目標設定	
		実績				設定した	
	【R12年度成果目標】 ・繁殖性改良による繁殖能力の向上		目標				10%向上 (R7年度基準)
	【R12年度成果目標】 ・アグーブランド豚の生産頭数の増頭		目標				30%増頭 (R2年度基準)
達成状況説明	・選抜雄種豚の肉質能力評価をゲノム育種価を用いて実施した。繁殖性について「生存産子数、死産数、ミイラ数、離乳頭数」を改良目標に設定した。						



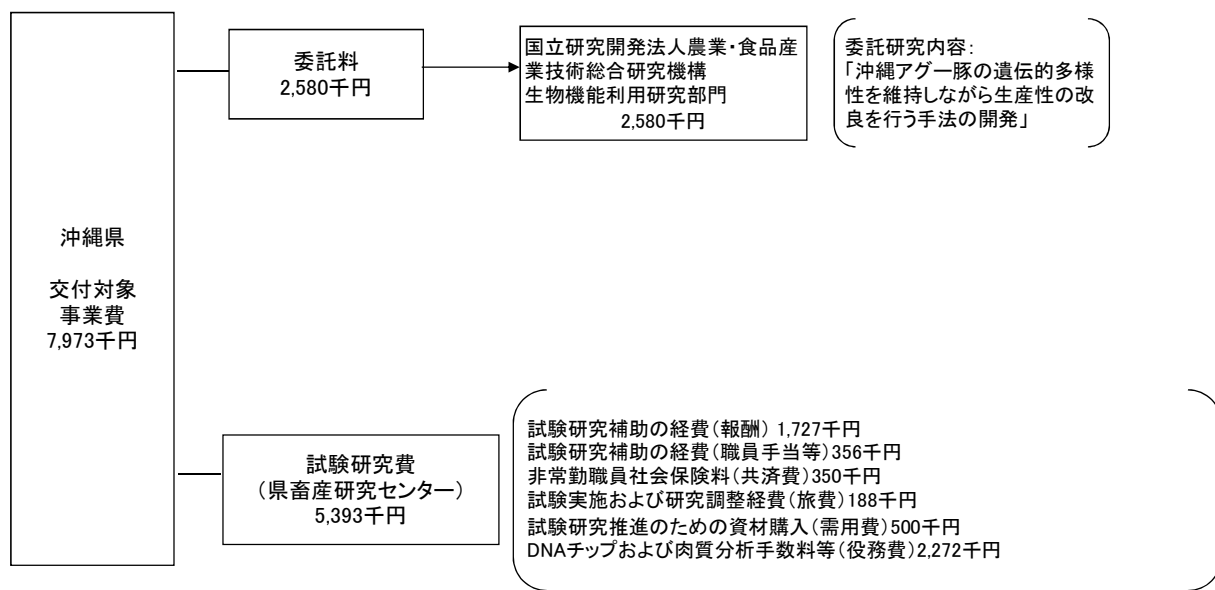
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遺伝的多様性が極めて低いことに加え、現状の生産供給体制では恒常的な集団維持への影響が懸念される。</li> <li>・沖縄アグー豚の遺伝的多様性の維持と恒久的な育種改良技術の確立には、ゲノム情報や血統情報の収集および利用体制に加え、それに紐づく肉質、発育性および繁殖性等に関するデータの効率的な収集体制が必要である。</li> <li>・関係機関や生産者と成果のフィードバックおよび問題・課題の共有を図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遺伝的多様性の維持や生産供給体制を改善するために、問題点とその課題を抽出していく必要がある。</li> <li>・ゲノム情報や血統情報のデータベース化を図るとともに、効率的な肉質、発育性および繁殖性等に関するデータ収集体制を構築していく必要がある。</li> <li>・成果のフィードバックと問題・課題の共有を図るために、関係機関や生産者との連携体制を引き続き強化していく必要がある。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

- ・遺伝的多様性の維持や生産供給体制を改善するために、問題点とその課題の抽出を行い、ToDoリストを作成する。
- ・ゲノム情報や血統情報のデータベース化に取り組むとともに、肉質、発育性および繁殖性等の効率的なデータ収集方法を検討する。
- ・成果のフィードバックと問題・課題の共有を図るために、関係機関や生産者との連携体制を強化していく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先				交付対象外経費
		うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	
7,973	7,973	6,378	1,595	0	0	0



資金の流 れ、費 目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
資金の流 れ、費 目	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定していること、さらに委託業務の進捗状況を確認しており、妥当であったと考えている。 ○費目、用途については支出に関する関係書類により、事業目的に沿って適切に執行されているか確認を行ったところ、適切に執行されていた。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号 ・事業名	62	持続可能な森林造成支援システムの構築事業		新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(7)-オ-③		
担当部署名	農林水産部農林水産総務課 (森林資源研究センター)	事業実施 (予定)年度	R2 ~ R8 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	地域特性を最大限に生かした農林 水産技術の開発と普及  III-1-(6)		
事業内容	耕作放棄地等造成未利用地(非農地)を造林地として有効に活用するため、植栽予定箇所の前植生及び土壌調査を実施する。また、既存の造林地において生育不良の箇所を調査(土壌、環境)し、生育不良となった原因を検討する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和9年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	5,437		5,234		20,527
		(b)予算現額	5,437		5,234		20,527
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d)前年度繰越額	0				
		A. 計(b+d)	5,437	0	5,234	0	20,527
	B. 執行済額		5,387		5,148		19,840
	うち交付金充当額		4,310		4,118		15,872
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0
	執行率(%) (B/A)		99.1%	#DIV/0!	98.4%	#DIV/0!	96.7%
予算の状況の説明		耕作放棄地等造成未利用地(非農地)を造林地として有効に活用するため、植栽予定箇所の植生及び土壌調査、既存の造林地における生育不良の箇所調査、生育不良となった原因の検討に要する経費として委託料、備品費、事務費等を計上した。 執行率は96.7%であり、概ね計画的に執行できた。					
活動目標 (指 標) 及び 進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	前植生調査の実施	目標				1ha	
		実績				1ha	
	土壌分析調査の実施(1haのうち植生が特徴的な1500m2を対象)	目標				1500㎡	
		実績				2500㎡	
	環境要因による影響調査	目標				0.5ha×2箇所	
実績					1箇所目:0.26ha 2箇所目:1.48ha		
進捗状況説明	令和5年度の植栽試験に向けて、前植生の調査及び土壌調査を実施した。また、既存のクヌギ、イスノキ造林地において環境要因による影響調査を実施した。						
成果目標 (指 標) 及び 達成状況	R4成果目標(指標)		基準値 (〇〇)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (R9年度)
	植栽による土壌評価試験プロットの設置	目標				1箇所	-
		実績				1箇所	-
	環境要因による影響調査プロットの設置	目標				2箇所	-
		実績				4箇所	-
	環境要因による影響調査	目標				1箇所	-
		実績				1箇所	-
【R9年度成果目標】 本事業の成果を活用した造林事業の面積		目標				2ha/年	
達成状況説明	①植栽による土壌評価試験プロットを1箇所設置し、当初予定していた土壌調査、植生調査を実施し、目標を達成した。 ②環境要因による影響調査プロットを4箇所設置し、当初予定していた植生調査、土壌調査を実施し、目標を達成した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	令和4年度の調査により令和5年度植栽予定箇所には、切土箇所と盛土箇所が混在していることが明らかになった。しかし、それぞれの範囲や盛土の深さが不明。切土と盛土が混在することで植栽後の樹木の成長に影響があると思われる。	メッシュ状に土壤硬度の調査を実施し、切土箇所と盛土箇所の区分と、盛土の深さについて評価し、植栽後の樹木の成長と関連付けて解析する。
<b>今後の取り組み方針</b>		
令和4年度の調査において、令和5年度植栽箇所に切土箇所と盛土箇所が混在することが明らかになったことから、令和5年度に詳細な土壤調査を実施する。また、令和7年度にも植栽を予定していることから令和4年度の知見を活かし、切土箇所と盛土箇所が混在することを前提に令和6年度に土壤調査を実施する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
19,840	19,840	15,872	3,968	0	0	0

沖縄県  
交付対象  
事業費  
19,840千円

→

委託料  
8,876千円

→

持続可能な森林造成システムの構築委託業務沖縄県環境科学センター・沖縄県緑化推進委員会共同企業体  
8,876千円

→

備品購入費  
5,284千円

→

①(有)協和理研4,701千円  
②(株)okicom60千円  
③(有)エヌケイ商事60千円  
④(有)協和理研390千円  
⑤(有)エヌケイ商事40千円  
⑥(有)エヌケイ商事33千円

→

事務費  
5,680千円

→

①ポロメーター・クロロフィル蛍光測定メーターの納品  
②ドローン飛行に必要な資機材の納品  
③充電式アースオーガの納品  
④デジタル土壌透水性測定器の納品  
⑤交換用塩素イオン電極の納品  
⑥手動式吸引ポンプの納品

〔環境要因による影響調査〕

〔会計年度任用職員の経費(報酬、共済費、職員手当等) 3,601千円  
試験のための資材購入(需用費) 1,502千円〕

資金の流 れの点 検・費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先の選定については、特殊性の高い業務であり、公募型プロポーザル方式により適正に選定した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○100万円以上の備品については一般競争入札により適正に選定した。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、事業報告書等支出に関する関係書類により、事業目的に沿って適切に執行されていることを確認した。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

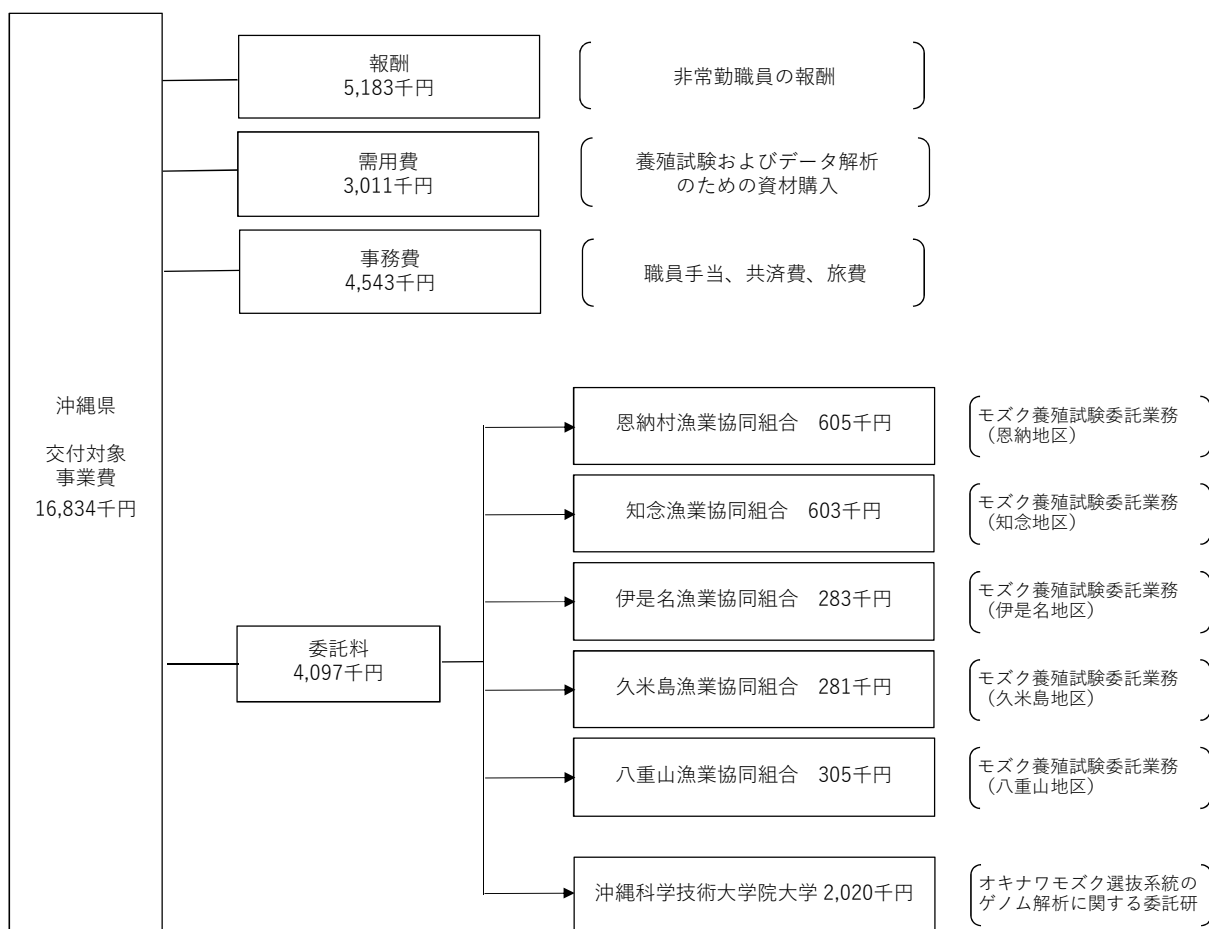
## 令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	63	オキナワモズクの生産底上げ技術開発事業		新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(7)-オ-③		
担当部署名	農林水産部農林水産総務課 (水産海洋技術センター)	事業実施 (予定)年度	H29 ~ R8 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	地域特性を最大限に活かした農林水産技術の開発と普及 Ⅲ-1-(6)		
事業内容	モズク養殖生産量の安定化の為、高水温耐性等を有する候補株を新たに3株選抜し、その機能性成分特性を確認する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和13年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	14,220		13,509		17,332
		(b)予算現額	14,220		13,509		17,332
		(c)増減額(b-a)	0		0		0
		(d)前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	14,220		13,509		17,332
	B. 執行済額		12,502		11,939		16,834
	うち交付金充当額		10,001		9,551		13,467
	C. 次年度繰越額				0		0
	執行率(%) (B/A)		87.9%		88.4%		97.1%
予算の状況の説明		執行率は97.1%であり、概ね計画的に執行できた。					
活動目標 (指 標) 及び 進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	①室内実験による耐性等の確認	目標		室内実験による耐性の確認	室内実験による耐性の確認	室内実験による耐性の確認	
		実績		室内実験による耐性を確認した	室内実験による耐性を確認した	室内実験による耐性を確認した	
	②候補株の機能性成分分析の実施	目標				成分分析の実施	
		実績				成分分析を実施した	
	③候補株のゲノム解析の実施	目標		ゲノム解析の着手	ゲノム解析の着手	ゲノム解析の実施	
		実績		ゲノム解析に着手した	ゲノム解析に着手した	ゲノム解析を実施した	
	④候補株の試験養殖の実施	目標		試験養殖の実施	試験養殖の実施	試験養殖の実施	
		実績		試験養殖を実施した	試験養殖を実施した	試験養殖を実施した	
進捗状況説明	①収集した保存株を用い、室内試験により高水温耐性を確認した。 ②養殖試験で得られたサンプルを用い、機能性成分分析を実施した。 ③候補株をOISTへ譲渡し、ゲノム解析を実施した。 ④選定した候補株を使用し、県内5海域で養殖試験を実施した。						
成果目標 (指 標) 及び 達成状況	R4成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (R13年度)
	①高水温耐等有するオキナワモズク候補株を3株選抜	目標				高水温耐性等候補株3株を選抜する	
		実績				高水温耐性等候補株3株を選抜した	
	②候補株の機能性成分と遺伝的特性把握、養殖試験による品質の確認	目標				品質確認を実施する	
		実績				品質確認を実施した	
	【R13成果目標】 オキナワモズク養殖生産量の対前年度比		目標				15%以内
達成状況説明	①室内実験により高水温耐性等を有するオキナワモズクの候補株を3株選抜した。 ②候補株を用い機能性成分と遺伝子特性把握、および養殖試験による品質の確認を行った。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養殖現場で求められる高水温耐性株を複数選抜するためには、適切な室内培養手法を確立するとともに、より多くの系統から生長や形質の優れた株を選抜する必要がある。</li> <li>・養殖試験においては、従来利用されている株よりも、生産性が高く、品質(機能性成分、太さ等)に優れた株となることを評価する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内各地においてさらなる候補株を収集するとともに、水温と光の複合的な培養条件により、詳細な生長特性を評価する必要がある。</li> <li>・養殖試験で候補株の品質評価を行う際、試験網に生育する藻体の平均的数値を適切に計測する必要がある。</li> </ul>
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内各地から収集した候補株を用い、改善した室内培養下で生長評価を行い、優良候補株を選抜する。</li> <li>・候補株の適切評価のため、試験時の養殖網において生長や品質にどれだけのバラつきを生じるかを調査し、サンプリング手法を確立する。</li> </ul>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
16,834	16,834	13,468	3,366	0	0	0



資金の用途の点検・費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、養殖管理を行い、かつ海域を熟知する漁協が対象となるため、随意契約が妥当であったと考えている。 ○費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号 ・事業名	64	ミーバイ養殖高度化に向けたガンジュー(健康)評価事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(7)-オ-③			
担当部署名	農林水産部農林水産総務課 (水産海洋技術センター石垣支所)	事業実施 (予定)年度	H27 ~ R8 年度	地域特性を最大限に生かした農林 水産技術の開発と普及  Ⅲ-1-(6)			
事業内容	養殖生産者の経営安定を図るため、血液分析等ととりいれた健康状態評価に関する研究を行う。						
効果発現年度	■当年度      ■後年度(令和13年度)						
実施方法	■直接実施    □委託    □補助    □負担    □その他( )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	9,593	0	9,279	0	7,512
		(b)予算現額	9,593	0	9,279	0	7,512
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d)前年度繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	9,593	0	9,279	0	7,512
	B. 執行済額		8,753	0	8,781	0	6,099
	うち交付金充当額		7,003	0	7,024	0	4,879
	C. 次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		91.2%	#DIV/0!	94.6%	#DIV/0!	81.2%
予算の状況の説明		・養殖現場における生残率低下問題に対応するため、令和4年度から新規事業(平成27~令和3年度で実施したおきな わ産ミーバイ養殖推進事業の後継事業)として、飼育試験や血液の採取・分析等に要する需要費等を計上した。 ・執行率は81.2%であり、会計年度任用職員の応募がなく、計画通り確保できなかったため、報酬・共済費・職員手当 等・旅費を満額執行できなかったことによる。					
活動目標 (指 標) 及び 進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	養殖魚の血液性状と給餌飼料の調査の実 施	目標				50検体以上、 5経営体以上	
		実績				40検体、3経営体	
	給餌試験の実施	目標				3種類の飼料による 比較	
		実績				2種類の飼料による 比較	
	検討添加物のポリフェノール量測定	目標				5品目	
実績					8品目		
進 捗 状 況 説 明	・検討添加物のポリフェノール量測定については、県内で利用可能性のある素材を広く検討したことで、目標を達成した。 ・養殖魚関連の調査と給餌試験については、離島におけるコロナ禍の影響を受け経営体との調整や、検査試薬および飼料確保に支障が あったことから、目標を若干下回る結果となった。						
成果目標 (指 標) 及び 達成状況	R4成果目標(指標)		基準値 (H30年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (R13年度)
	・健康状態の指標となり得る血液成分の候 補を選定する。	目標				選定の実施	
		実績				選定の実施	
	【R13成果目標】ミーバイ養殖における生産額		目標	100%			115%
達 成 状 況 説 明	・支所飼育魚と養殖魚両方の血液分析データを収集し、比較に有効な血液成分や指標化に必要な精度等、選定上重要な知見が蓄積され た。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養殖魚や経営体に関する調査の円滑な実施においては、外部関係者との調整や信頼関係構築が不可欠である。</li> <li>・飼育試験で有用な成果を得るためには、経営体の現状把握が必要である。</li> <li>・血液以外の健康状態の指標も検討が求められる。</li> <li>・他魚種での関連する先行調査が存在する可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係者との連携、情報共有、意見交換の推進が有効と思われる。</li> <li>・給餌飼料の調査結果を踏まえて給餌試験の設定が必要である。</li> <li>・血液以外では、解剖時の臓器状態等の指標化も検討に値する。</li> <li>・他魚種での知見を参考にし、試験を効率的に進めることが必要である。</li> </ul>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営体、漁協、県普及指導員と連携して事業を実施し、必要に応じて説明会や報告会による意見交換も行う。</li> <li>・経営体の給餌飼料の調査を年度開始後早い時期に実施する。</li> <li>・肝臓等の臓器について、色の数値化による評価を行う。</li> <li>・他魚種での先行研究事例について、資料を収集し知見の整理を行う。</li> </ul>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
6,099	6,099	4,879	1,220	0	0	0

沖縄県  
交付対象  
事業費  
6,099千円

試験研究費  
6,099千円

試験研究補助の経費(報酬、職員手当、共済費) 3,658千円  
 試験研究推進のための資材購入(需用費) 1,940千円  
 その他事務費 501千円

資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○分析の外注についても、県の規則やガイドラインに基づき適切な随意契約が行っており、妥当と考えられる。  ○電気料金を事業での実使用量に基づき算定するなど、真に必要な支出に限定されていた。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
○			

令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	81	沖縄型耕畜連携推進事業	新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(7)-カ-①			
担当部課名	農林水産部畜産課	事業実施(予定)年度	H29 ~ R6 年度	生産性と収益性を高める農業生産基盤の整備			
事業内容	酪農にて発生した堆肥・液肥で栽培試験を行い、耕種農家と意見を交換しながら、耕畜連携を推進し、持続的な酪農経営を実現するため、以下のとおり実施する。 ①現地踏査で酪農家から排出される糞尿処理方法を把握し、臭気調査を実施、液肥中の残留種子と堆肥中の残留農薬の調査、試験 ②環境対策事例の作出 ③作物栽培に向けた基礎情報の収集 ④モデル地区における耕畜連携推進 ⑤耕畜連携推進のための人材育成						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R8年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・執行額【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	—	—	14,259	—	14,568
		(b)予算現額	—	—	14,259	—	14,568
		(c)増減額(b-a)	—	—	0	—	0
		(d)前年度繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計(b+d)	—	—	14,259	—	14,568
		B. 執行済額	—	—	14,175	—	14,555
		うち交付金充当額	—	—	11,340	—	11,644
	C. 次年度繰越額	—	—	0	—	0	
	執行率(%) (B/A)	—	—	99.4%	—	99.9%	
	予算の状況の説明	・酪農環境課題の解決及び耕畜連携を推進を図るため、令和4年度から新規事業(平成29~31年、令和3年に実施した沖縄型畜産排水対策課題解決モデル事業の後継事業)として、環境対策事例の作出及び実証試験等に要する経費として委託料等を計上した。 ・執行率は99.9%であり、概ね計画的に執行できた。					
活動目標(指標)及び進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	糞尿処理方法や臭気の実態把握と残留種子の発芽試験、残留農薬実態把握	目標				堆肥センター協議会の開催1回	
		実績				堆肥センター協議会の開催1回	
	環境対策事例の作出	目標				2事例	
		実績				2事例	
	作物栽培に向けた基礎情報の収集	目標				先進地視察の実施1回	
		実績				先進地視察の実施1回	
	モデル地区における耕畜連携推進	目標				意見交換会の実施1回	
		実績				意見交換会の実施1回	
耕畜連携推進のための人材育成	目標				講習会の実施1回		
	実績				講習会の実施2回		
進捗状況説明	・糞尿処理方法や臭気の実態把握等について、沖縄県堆肥センター協議会を開催し、意見交換及び現状把握を行った。 ・環境対策事例について、実証試験(簡易ばっ気等)及び消臭剤の腐食試験の2事例を作出した。 ・R5年度から行う作物栽培試験に向け、飼料作物栽培の先進地である熊本県へ視察を行った。 ・モデル地区における耕畜連携の推進について、畜産側として酪農家からの意見をとりまとめる意見交換会を実施した。 ・人材育成について、畜産臭気対策や排水対策等の環境対策講習会を開催した。						
成果目標(指標)及び達成状況	R4成果目標(指標)		基準値(〇〇年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(R8年度)
	現地踏査及び臭気調査(5農家)、残留種子の発芽試験(5農家)、残留農薬のクロピラリドを分析(3農家)	目標				5農家/5農家/3農家	
		実績				1農家	
	環境対策事例の作出(3農家)	目標				3農家	
		実績				1農家	
	排水・堆肥調査(5農家)、肥効試験(1検体)、土壌診断(3圃場)	目標				5農家/1検体/3圃場	
		実績				排水・堆肥調査5支部(農家)	
	意見交換会開催(1回)	目標				1回	
		実績				1回	
	講習会開催(1回)	目標				1回	
実績					2回		
【R8成果目標】 ・南部地域酪農家と耕種農家等の堆肥・液肥利用の推進	目標					5件	
【R8成果目標】 ・改訂版の沖縄県酪農環境課題対策方針及び講習会で推奨する環境対策技術の導入	目標					3農家	
達成状況説明	①現地踏査及び臭気試験等について、環境対策事例の協力農家圃場にて液肥散布時の臭気調査を中心に実施したため、実績が1農家となった。 ②環境対策事例について、当初は1農家あたり1ケースを想定して3農家で試験を行う予定であったが、今回の協力農家にて複数ケースの試験が可能であったため試験の環境条件を揃える観点から1農家で試験を行った。 ③排水・堆肥調査については、意見交換会の事前調査として沖縄県酪農農業協同組合の各支部へアンケートを行い5支部から回答があった。また、肥効試験及び土壌分析については、R5年度の作物栽培試験の事前準備として試験候補地の調査等を実施予定であったが、栽培試験の直前及び直後の調査が適当と判断したため今年度は実施せず、候補地及び協力組織の選定、収穫機械・オペレーターの調整並びに栽培品種の選定等を中心に行い、肥効試験及び土壌診断はR5年度に実施する。 ④モデル地区における耕畜連携の推進について、畜産側として酪農家からの意見をとりまとめる意見交換会を1回実施した。 ⑤人材育成について、畜産臭気対策や排水対策等の環境対策講習会を2回開催した。						



取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	①成果目標の各調査について、効率的な調査の種類・順番・時期の調整により実施できないものがあった。 ②前身事業からの課題として、堆肥を活用した作物の栽培試験等がまだ未実施であることが課題となっている。	①先進地視察及び意見交換会等で収集した情報を基に調査スケジュールを組み立てる必要がある。 ②堆肥を活用した飼料作物及び農作物の栽培試験等を実施する必要がある。
<b>今後の取り組み方針</b>		
①R4年度の情報収集・調査を基に作成した栽培試験のスケジュールにて、生育調査及び播種前・刈取り後の適切な時期に土壌分析・飼料成分分析等を行う。 ②R5年度より液肥(家畜排せつ物の液体成分を堆肥化したもの)を活用した作物栽培試験を実施し、県内での飼料用作物の栽培可能性や液肥の活用可能性を試験する計画である。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
14,555	14,555	11,644	2,911	0	0	0

沖縄県  
交付対象事業費  
14,555千円

委託費  
14,397千円

一般社団法人沖縄県環境科学センター・株式会社建設技術研究所  
共同企業体

沖縄型耕畜連携推進事業に係る業務委託

旅費  
158千円

資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式を採用し、一連の契約に係る見積書及び企画提案書等を徴し選定しており、妥当であったと考える。 ○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	84 沖縄型森林環境保全事業	新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(7)-カ-②				
担当部署名	農林水産部森林管理課	事業実施(予定)年度	H29 ~ R6 年度		沖縄振興基本方針該当箇所	自然環境に配慮した森林及び林業生産基盤の整備 Ⅲ-1-(6)	
事業内容	沖縄の貴重な森林を守るために、市町村等関係機関と協同して地域の状況に応じた防除戦略を策定するとともに、沖縄の森林に対する被害の大きい松くい虫や南根腐病について防除を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )						
予算額・執行額 【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	47,485		49,707		43,853
		(b)予算現額	47,485		69,761		86,712
		(c)増減額(b-a)	0	0	20,054	0	42,859
		(d)前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	47,485	0	69,761	0	86,712
	B. 執行済額		44,798		73,526		87,283
	うち交付金充当額		35,839		53,856		65,506
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0
	執行率(%) (B/A)		94.3%	#DIV/0!	105.4%	#DIV/0!	100.7%
予算の状況の説明		予算額、執行済額には市町村負担金が含まれる。					
活動目標(指標)及び進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	松くい虫防除のための伐倒駆除536m3、樹幹注入8,000本実施	目標				伐倒駆除 536m3 樹幹注入 8,000本	
		実績				伐倒駆除 727m3 樹幹注入 8,211本	
	南根腐病の土壌くん蒸剤を用いたモデル防除について、モデル地区の選定	目標				モデル地区の選定	
		実績				モデル地区の選定	
	南根腐病の防除手法に関する勉強会の開催	目標				勉強会開催	
実績					勉強会開催		
進捗状況説明	・令和4年度沖縄型森林環境保全事業において、松くい虫被害木の伐倒駆除を727㎡実施した。また、感染防止のための樹幹注入を薬剤数8,211本(対象松本数1,473本)実施した。 ・南根腐れ病の土壌くん蒸剤を用いたモデル防除について2カ所のモデル地区選定を行った。 ・南根腐病の防除手法に関する普及のため、勉強会を1回開催した。						
成果目標(指標)及び達成状況	R4成果目標(指標)		基準値(〇〇年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(〇〇年度)
	松くい虫被害量を742m3以下にする。	目標				742m3	
		実績				3,947m3	
	南根腐病の病状及び防除方法について普及啓発を行う。	目標				普及啓発の実施	
		実績				普及啓発の実施	
達成状況説明	松くい虫被害量については、目標742m3に対し、実績が3,947m3で未達成となっている。達成できなかった主な理由は、久米島での爆発的な被害拡大によるものである。 南根腐病の病状及び防除方法に関する普及啓発については、勉強会を開催したことにより達成できた。						

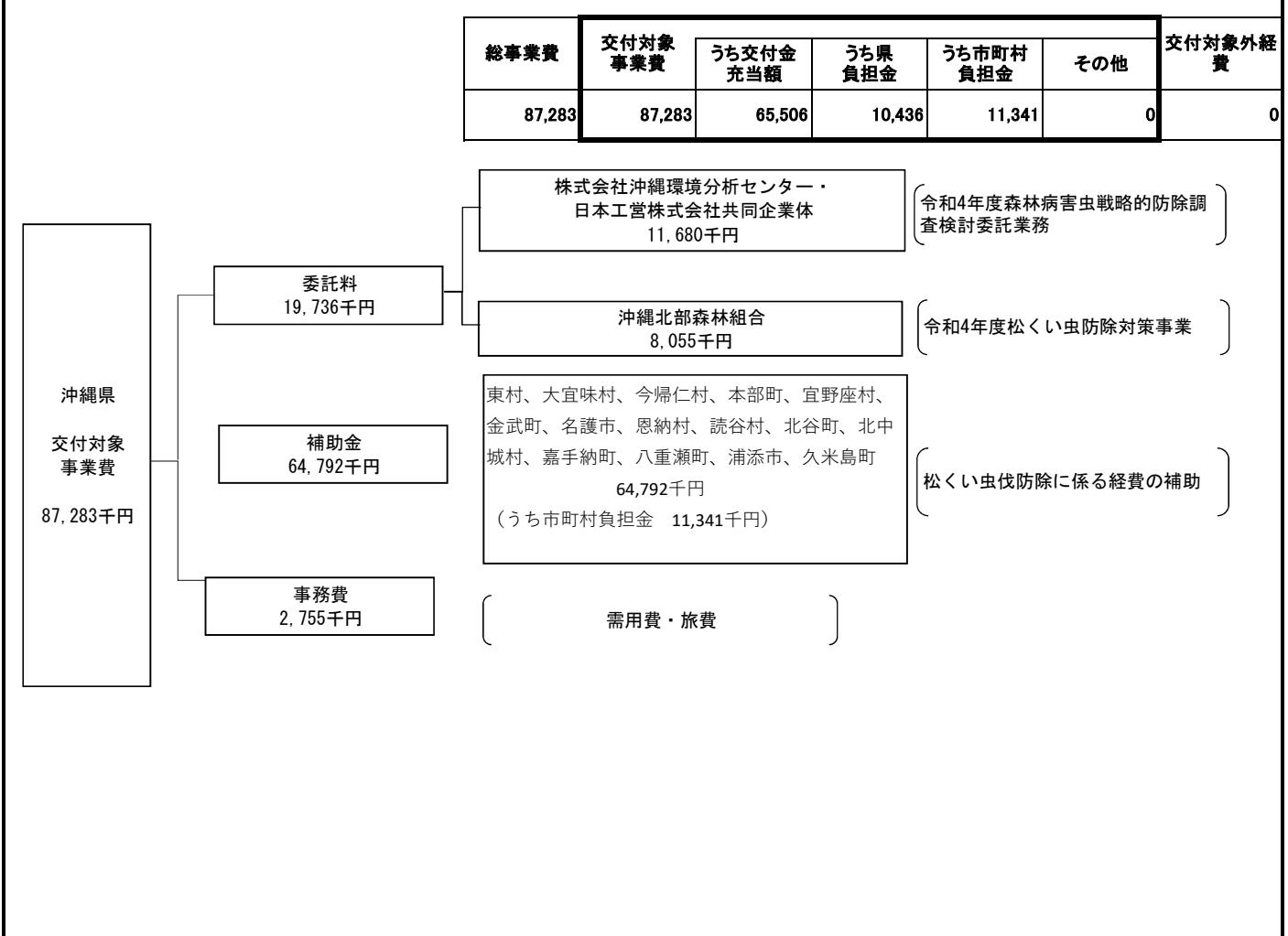
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松くい虫 ドローン活用等による被害把握で適切な駆除を実施できた。 久米島町での被害拡大に伴い被害量の目標達成ができなかった。</li> <li>・南根腐病 モデル防除地区の選定を行った。また、普及啓発のため勉強会を開催した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松くい虫 引き続き被害状況を把握し、適切な駆除を実施する。 久米島町での被害拡大については、専門家の意見を踏まえた上で、引き続き町と連携し、被害状況の把握と補助金を早期執行できるよう努める。</li> <li>・南根腐病 令和5年度実施予定のモデル防除で、安全に防除を実施するための検証を行う。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

令和5年度実施内容

- ・防除戦略に基づいた松くい虫防除の実施
- ・北部地区での防除効果の検証により松くい虫被害の北上を抑制する。
- ・南根腐れ病の土壌くん蒸剤使用について、モデル防除の実施(モデル防除の際勉強会を同時開催予定)。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○受益者(市町村)負担については、沖縄特別振興対策事業で実施した「リュウキュウマツ景観保全対策事業」の補助率(国:県:市町村=8:1:1)を参考に設定しており、妥当である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、額の確定時において支出等を確認しており適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

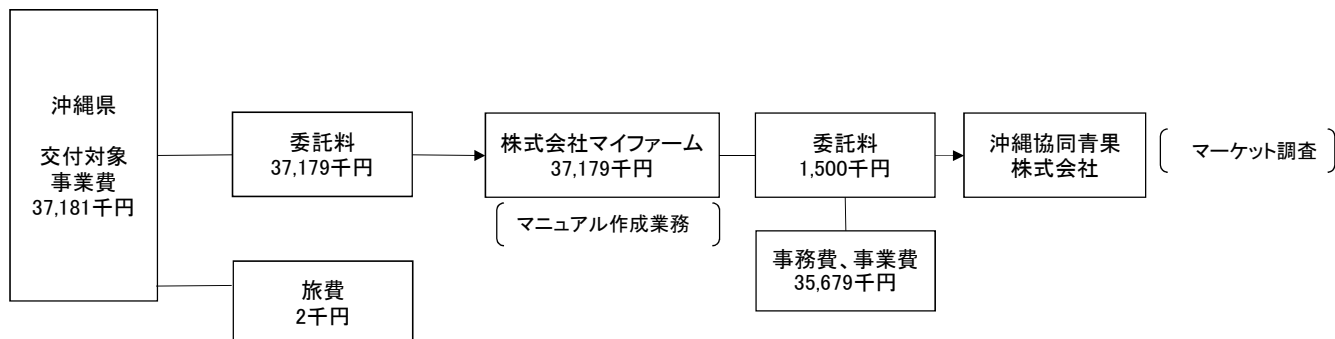
## 令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号 ・事業名	68	特別栽培農産物認証等推進・普及事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(7)-キ-①			
担当部署名	農林水産部営農支援課	事業実施 (予定)年度	H31 ~ R6 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	環境に配慮した持続可能な農 林水産業の推進		
事業内容	特別栽培農産物認証などの環境保全型農業のさらなる推進を目的に、特裁水準の栽培技術に関するマニュアル作成のための実証を行う。また、生産者や関係機関に制度の周知や栽培技術の普及を図る。 有機JAS水準の栽培可能性を検証する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	33,404		32,737		37,718
		(b)予算現額	33,404		32,737		37,718
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d)前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	33,404	0	32,737	0	37,718
	B. 執行済額		32,705		31,930		37,181
	うち交付金充当額		26,164		25,544		29,745
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0
執行率(%) (B/A)		97.9%	#DIV/0!	97.5%	#DIV/0!	98.6%	
予算の状況の説明		執行率は98.6%であり、概ね計画的に執行できた。					
活動目標 (指 標) 及び 進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	・園芸戦略品目の実証栽培、栽培マニュアル作成基礎データ収集(5品目)	目標	-	-	-	5品目	
		実績	-	-	-	5品目	
	・特別栽培農産物の栽培技術の普及、環境保全型農業の周知(5品目)	目標	-	-	-	5品目	
実績		-	-	-	5品目		
進捗状況説明	・農家モデルほ場でマニュアル作成に向けた施設栽培2品目(ピーマン、キュウリ)に加えて、露地栽培3品目(にんじん、葉野菜2品目)の検証栽培を行い、データを収集することができた。 ・前事業で作成した品目別マニュアル(さやいんげん、ゴーヤー、トマト、オクラ、かぼちゃ)を活用し、農家圃場で技術を実証し、また現地検討会やリモート研修等にてJA営農指導員、普及指導員、農家等に周知することができた。						
成果目標 (指 標) 及び 達成状況	R4成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (〇〇年度)
	環境保全型農業の実践数	目標		-	-	1977件	
		実績		-	-	1967件	
	達成状況説明	・令和2年度末時点(1,827件)を基準として、年間75件増加を想定し、令和4年度末時点で1,977件を目標としたところ、実績が1,967件とほぼ達成した(達成率99.5%)。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>更なる制度の認知度向上、確立した栽培技術の普及を図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>制度の認知度向上、栽培技術の普及のため、説明会を開催する必要がある。</li> </ul>
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> <li>出荷団体等や生産者に対して、特裁マニュアルの勉強会や実証圃場での現地検討会を実施する。</li> </ul>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	資金の流れ				交付対象外経費
		うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	
37,181	37,181	29,745	7,436	0	0	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○委託業者は、公募型企画提案競争(プロポーザル方式)によって選定したため、妥当であったと考える。
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、用途については、事業報告書等を検査し、適正であることを確認した。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	